2月號

婦人運動

第5巻第2號





大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）昭和二年一月廿八日印刷納本 同二年二月一日發行——第五巻第二號

職業婦人社發行


菱
新時代の
流行品と
實用品に充つ
お買物は常に丸菱
丸菱呉服店
東京・丸ビル

二月號婦人運動 第五巻第二號 目次

ある娘に（巻頭詩）

秋田雨雀

男。
女。
男である私。
女であるお前。
お前はエスペラントの教科書を私の前に開く。
哲學のページをたど〱しい指先で開く、
午後の日光に社會學の幾頁かを繰る、
フランス革命の原因に就いてお前は知りたがる。
然し娘よ、
お前の仲間は、

女といふお前の仲間は、
今何んな運命に置かれてゐるかお前には解らない。
だがお前がほんとに賢い娘なら、
この窓の外のあの聲の意味が解るであらう。

娘よ、
本を閉ぢてあの聲をおきゝ、
あれがお前の仲間の聲だ！

娘よ、
自分が『女』であるといふことはそれ自身一つの叫びなのだ。
それがほんとにお前に解りさへすれば……

娘よ、
本を閉ぢてあの聲をおきゝ、
あれがお前の仲間の聲だ！

（一九二七、一、一九）

婦人と國際勞働機關

淺利順四郎

國際勞働の問題は、婦人と密接な關係を持ち、且又、國際勞働機關の活動の上で、婦人は重要な役目を勤めて居る。國際勞働機關の構成を定めたヴェルサイユ平和條約第十三篇（勞働篇）は、この國際勞働機關の一切の仕事に就て、婦人の參加を認める規定を設けてゐる。

第一に國際勞働總會に於て議題に供せらるゝ事項が、特に婦人に關係のある問題である場合には、各國より派遣せらるゝ代表者の顧問の內、少くとも一人は婦人でなければならぬと定め、更に國際勞働局の局員中には、相當數の婦人を加へねばならぬと規定せられてある。

尙平和條約が一切の產業國に對して、その適用を勸告し、且將來の指導原則となす爲めに定めた基本原則――世間で通常勞働憲章と呼ばれて居るもの――の中に『同一の價値ある仕事に就ては、男も、女も、同等の報酬を受くべき原則』を掲げ、且又『勞働者保護の法令の實施を確保する爲めに、各國は監察制度を設け、婦人をも是に參與せしむべきこと』と規定したる如き、特に注意に値する點である。

抑々平和條約中の勞働に關する規定が、起草せらるゝに當つて、國際婦人協議會（The International Council of Women）は、他の國際的及び國內的の諸團體と共に、一九一九年三月パリに代表者を送り、平和條約勞働篇の起草の任に當つて居た國際勞働法制委員會に向つて、婦人の立場より種々の要求を提出したのであつた。此等の諸要求は、委員會に

よつて充分に考慮せられたので、國際勞働機關の組織の上に於ても、亦この機關の指導精神の上に於ても、多大の影響を與へた。

國際勞働總會への婦人顧問

國際勞働總會への婦人顧問の任命に就て見ると、これまで既にベルギー、カナダ、キユバ、デンマルク、フランス、ドイツ、イギリス、インド、イタリー、日本、オランダ、ノールウエー、スペイン、スウエーデン、スウイス、等の國々は、或は政府側、或は雇傭主側、或は又勞働者側の代表者の顧問として、婦人委員を派遣した。例へば第一回ワシントン國際勞働總會（この總會では、婦人の問題が特に重要であつた）には、二十二名の婦人の出席を見、次で第三回の總會には十八名の出席を見た。ノールウエー、デンクルク等の政府は、婦人を政府側の正式代表にすら任命した。斯樣な有樣で、第二回總會の如く、單純に海員勞働のことのみを取扱つた場合は別として、其の以外の總會て於ては、多かれ、少かれ、必ず幾人かの婦人が出席して、或は本會議に於て、或は又委員會に於て可成り重要な役割を演じて居る。

國際勞働局内の婦人局員

次に國際勞働局の内部に就て見ても、例へば昨年七月末に於ては、男子局員百八十八名に對して、婦人局員は百五十名を數へて居る。勞働局内の地位は男子と婦人とに同樣に開放されて居て、選拔試驗に依て、編輯官や翻譯官や色々高級な地位にも就き得ることゝなつて居る。極く最近まで英人のミス、サンガー氏の如きは、勞働法制課長として男子の博士などをも、その部下に持つて居つた。現在ジユネーヴの國際勞働局に勤めて居る婦人達の國籍は、ベルギー、イギリス、チエコスロヴアキア、デンマルク、オランダ、フランス、ドイツ、ギリシア、アイルランド、イタリー、ラトヴイア、ノールウエー、ポーランド、ロシア、スウイス等に別れて居る。

上述の如く國際勞働局の局員中に、相當數の婦人を加へるべきことは、條約に定められた一つの原則であるから、單にジュネーヴの本局に於てのみならず、ロンドン、パリ、ベルリン、ローマ、ワシントン及び東京に存在するその支局に於ても成る可く多くの婦人を任用する方針を採つて居り、現に東京支局に於ても、五人の婦人局員を任用して居る。

婦人諸團體との聯絡

國際勞働局は其の創立の當初から、勞働婦人の國際的團體である國際勞働婦人聯合(The Mternational Federation of Working Women) と密接なる關係を保ち、この聯合の大會には、常に局の代表者を出席せしめた。國際勞働局は同樣に各國に於ける勞働組合運動の婦人部とも直接緊密の關係を保つて居る。この外、勞働局は各種の國際的婦人團體、例へば國際婦人協議會、國際婦人參政同盟 (The Internonal Women's Suffrage Alliance) 並に婦人國際平和自由同盟 (The Women's International League for Peace and Freedom 等とも接觸を保つて居る。此等の婦人團體との連絡を司る爲めに、特に一人の婦人局員が任命せられて居る。其の人はムンド (Fräulein Mundt) といふ獨逸人で、以前には獨逸で社會問題を取扱ふ或婦人雜誌の編輯を擔當して居た人である。

特に婦人に關係ある條約案と勸告

國際勞働會議で採擇せられた條約案や勸告中には、例へば八時間勞働に關するもの丶やうに、男女雙方に同樣に適用せらるべきものもあるが、特に又婦人のみに適用せらる丶ものもある。例へば婦人の夜業禁止に關する條約、婦人の産前産後の傭使制限に關するもの丶如きそれである。

今特に婦人に關する主なる條約案や勸告に就て簡單に說明を加へやう。

（一） 夜業の禁止

ワシントン第一回國際勞働會議に於て公私の工業的企業に於て、婦人の夜間傭使を禁止する條約案が採擇せられた。こゝに夜間と言ふのは、午後十時より午前五時に至る時間を含むところの繼續した十一時間を意味するのである。この條約は一九〇六年のベルン條約を基礎として、それに更に一歩を進めたものである。ベルン條約に於ては、夜間とは午後十時より午前五時に至る期間を意味し、且夜業の禁止は十人以上の勞働者を傭使する作業場のみに適用せられたのであつた。ワシントンの夜業禁止條約は夜間の期間を長くし、其の上十人以上の勞働者を傭使すると言ふ制限を撤廢した其の理由は經驗上夜業禁止の違反の最も多いのは、從來適用を除外されて居た小工場や小作業場であることが一般に認められたからである。

このワシントン條約の原則を農業に從事する婦人に適用する爲めに、第三回國際勞働總會に於ては、成る可く繼續九時間の夜間休養を農業婦人勞働者に與ふべしとする勸告が採擇せられた。農業の場合に於て、工業の場合ほど嚴格な規定を制定しなかつたのは、一つには農業勞働は天候の狀況に倚賴すること多く、又一つには氣候の關係上、或國に於ては眞晝に田園勞働に從事することが不可能であると言ふ理由に基くのである。

（二）母性の保護

ワシントン會議は產前產後の婦人勞働者を保護する爲めに、一つの條約案を採擇した。この條約案は公私の工業的及び商業的企業に於て、婦人をその出產後六週間傭使することを得ず、又六週間以內に多分出產あるべしとの診斷書を提出した場合、その婦人に勞働せしむることを得ずと定め、此等規定に基いて休業する婦人に對しては、その休業期間中母子の充分にして且健康なる生活を維持するに足るだけの手當を公共基金、其他より支拂るべしと規定するものである尙產後の婦人が其の生兒を哺育する場合に於ては、その就業時間中に於て、一日二回半時間の哺乳時間を與へらるべしと定めて居る。加之產前產後の婦人に就ては、雇傭主は出產に基く休業を理由として、解雇の申渡をなし得ざることに定められてある。

この條約案の原則を、農業婦人勞働者に適用する爲めに、第三回國際勞働總會に於て、やはり一つの勸告が採擇せられた。

(三) 保健施設

右の外、鉛中毒に對して婦人勞働者を保護する爲めの勸告が、第一回總會に於て採擇せられ 又第五回總會に於て採擇せられた工場監察制度に關する一般原則を定むる勸 告では婦人工場監察官の採用に就て の規定が挿入せられて居る。

條約案の實施狀況

今婦人の夜業禁止及び母性保護に關する二條約案の諸國に於ける批准實施の狀態に就て見ると、昨年七月末までに夜業禁止の條約を批准したる國々は、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、チエコスロヴアキア、エストニア、フランス、イギリス、ギリシア、インド、アイルランド、イタリー、オランダ、ルーマニア、南阿、スウイス等であり、母性保護の條約を批准した國々は、ブルガリア、チリー、ギリシア、ラトヴイア、ルーマニア、スペイン等である。固より正式の批准の未だ行はれない國々に於ても、其の手續進行中のものもあり、又批准手續の遲延に拘らず、實際上條約案と同一又は近似の國內法制を制定公布して居る國も多くある。

日本は此等二條約の何れをも未だ批准して居らず、又批准手續にも未だ着手しては居ないけれども、昨年七月一日より實施せられたる改正工場法令及び鑛業法令竝に健康保險法の諸規定に依つて、母性の保護に就ては、條約案と可成り近似したる法令の施行を見ることゝなり、又夜業の禁止も昭和四年六月三十日を以て、嚴格に實行せらるべきことが豫定せらるゝに至つたのである。固よりワシントンの諸條約は、夜業の禁止に就ては、廣く工業的企業の一切を含み、又母性保護に就ては工業的企業のみならず、商業的企業をも包含することゝ定められて居つて、所謂工業的企業中には、工場鑛山の作業のみならず、運輸、建築、土木等の諸勞働をも含むのであるから、適用範圍の上に多大の相違のあるこ

とに注意しなければならぬ。

國際勞働總會が、其の第一回のワシントン會議に於て、幾多の重要なる條約案を採擇して後、既に七年に垂として居るのにまだ我國に於て、時間制條約案と共に、婦人に關する前記二條約案の批准を見ないのは、甚だ遺憾なことではある。けれども若し他の方角より之を考案して、國際勞働機關創立後十ケ年の後に於て、日本の如く勞働條件の進歩の遲れたる國に於てすら、婦人の夜業も禁止せられ、産前産後の保護も行はれ、その上に兒童勞働の全廢、一日十時間勞働制の普及等を見るに至るべきことを思へば、其の進歩の顯著なることも亦確かに驚歎に値する所でなくてはならぬ。

社會改造に於ける自力と他力

惟ふに勞働問題の解決は、勞働者自身の自覺と運動とに待つべきか、或は社會一般の道義心、正義觀念の奮起と努力とに待つべきかに就ては、人或は見解を異にするであらうが、私はこの種の問題に於ては、常に自力と他力との協力を必要とするものと考へて居る。この意味に於て、國際勞働條約の實施と言ふが如き事項に就ては、單り勞働者のみならず、社會一般の覺醒と努力とを要求するものであつて、特に情操的方面に於て、長ぜりと認めらるゝ婦人の努力に待つものが多大であらうと思ふ。

此等の理由から國際勞働局の事業に協力するの趣旨より、一昨年三月我國に於て設立せられた國際勞働協會に於ては、特に婦人勞働問題の我國に於ける重要性に鑑みて、昨年三月より婦人勞働委員會なるものを特設し、各方面の婦人諸氏の協力を得て、我國に於ける婦人勞働狀態に就き調査を行ひ、その調査に基いて改善の意見を立て、輿論の喚起と指導とに努力することゝなつて居るのである。

人權要求と經濟的利益

兎も角現在の我國に於ては、徹夜作業、坑內勞働、長時間勞働と言ふが如き婦人に關聯する重要な改善の餘地が殘されて居る。

單に正義人道の上より見れば、徹夜業や坑內勞働の廢止せらるべきことは、言を要しないほど白明なことである。然るに何故に人道上當然なる改善が行はれないかと言ふに、それは日本の社會に於て、正義人道に基く勞働條件の改善に對する價値判斷よりも、不良なる勞働條件の利用より生ずる經濟的利益に對する價値判斷の方が優勢であるからである

經濟的原理より見れば、正義人道の顧慮と言ふ如きことは、何等直接に重要な要素ではない。唯我々が人間的要求、人權的要求が、一切の人間生活に於ける價値判斷中、最高位を占むべきものと認むる場合に於てのみ、經濟的の利益は唯道義的要求に反せざる限度に於てのみ許さるべしとの原理が生み出されるのであり、我が國際勞働機關の指導精神たる所謂勞働憲章の冒頭に掲げられたるが如く『法律上に於ても、將又事實に於ても、人間たる存在の勞働は、商品又は財貨と同樣に看做さるべからず』との原則が確立せらるゝのである。斯かる人權的要求と調和する限度に於いて、最も有效に經濟を運營することが、資本主義社會改造の根本命題なのである。

消費組合の社會的經濟的意義

――ヘルマン・フライスナー著、「協同組合と勞働運動」中の一部の照會――

村山重忠

消費組合の主要問題は、先づ第一に不必要なる仲介商の介在を除去し、直接組合員に對し商品の配給を行ふことであ

る。かゝる方法によつて、組合員は商業利潤として小賣商人の嚢中に流れ込むものを自己の手に收め、所謂資本主義經濟組織の中にある搾取關係から解放されることになる。即ち比較的安價な商品其のものに於て或は金そのものに於て利潤による搾取關係の羈絆を脫却する。而して資本主義は是等の關係を無視して居る。

次に、組合員の購買額により配當を行ふ方法は、組合員に對し比較的に正しく協同組合によつて達成された利益に參與する權利を與へる。而も是の權利は組合員一般に對し悉く同一の權利を附與し、其處には資本主義社會に於ける株式會社の株主等に見るが如き何等の差等が設けられてない。此の配當方法は、組合員に對し、充分に信用ある商品を購買することが出來ると云ふ確信を與へる。一般商人は、誇大な詐僞的廣告を行つて少しでも多くの利益を獲得しやうと努力するが消費組合にあつては、かゝる要なく商品分配を堂々と行ふことが出來、而も其處には權威さへも附與されて居る。故に、組合員は組合の商品に對しては何等の揣摩臆測をする必要なく購買出來るのである。從つて組合に於ては巷間の小賣商人の間に見る顧客の奪ひ合ひ等と云ふが如き危險を冒す必要がない。從つて又消費組合の商品の價格は、一般組合員の都合のよい樣に定められて居るから、此處にも面倒が起つて來ないのである。

消費組合に於ける取引は悉く現金拂制をその主要原則として居る。此の制度は、事業經營者にも組合員にも多大の利益を齎すものである。日々の使用に必要な商品を購買するに當つて掛賣を行ふ場合には、之によつて組合そのものも組合員なる購買者も共に危險性を作り出す樣なものである。かゝる事實は日常の經濟生活に於て屢々遭遇するところであつて、今更現金制の利益について冗々しく述べる要を見ない。

消費組合は、又組合員の非常時に當つて之が救濟の基金を調達することに役立つ。個人的にも一般的にも。と云ふのは、消費組合は、その組合員の購買額に應じ一定期間の後之を各組合員の持分に對し配當し、之が或る一定額に達すると之を各組合員の手許に償還することになつて居る。而も此の配當は一定期間の後は何時でも組合員の請求に應じ返却するものであるが故に、例へば組合員が病氣或は不時の出金を必要とする場合直ちに之が拂ひ戻しを受けて救濟の用

に當て得るし、組合員なる勞働者が勞働爭議等に遭遇し多くの爭議資金等を必要とする場合、直ちに之に用立てることが出來、空の米櫃を抱へて涙く家族の泣顔を見ずして勇敢に戰ふことが出來るのである。又組合員の死亡等の場合その家族の救濟基金ともなるだらうし、又失業の場合長い間の生活を保證することさへも出來るだらう。

或は又、消費組合は、その最も重大な仕事として賃銀額、勞働時間、過剩勞働に對する手當、夏期休暇、其の他の救濟機關に對する定まつた範疇を確立し、是等の不備不完のために苦しむ無産階級のために安住の境地を作り出すことも可能である。而して是の結果は、一般國民の敎化に貢献するところが多大であらう。其の他住宅問題を解決し、農村と都會の結合を完全にし、前者に在つては住宅問題に惱む者を減少し、後者にあつては農村文化の發達を促進する。かくすることによつて組合は、愈々益々財政的にも安固となり、組合員は愈々益々社會的に覺醒されて行くのである。かく、消費組合が强固になればなる程、又消費組合が偉大な利益共同態に統一され、商品の購入を集中し、地方的並に中央的の自己生産を確實にすればする程、益々組合は商品の取引上資本主義社會に於けるカルテルやトラストの價格問題に對し徹底的な一撃を加へることも出來る。

次で、余は消費組合が生活費低減の立法問題をひつさげて既存の法律に向つてアクチーブに戰を交へることが出來ると云ふ理由を説明しやう、この問題は、然し、決して政治的活動によつて達成せんとするのではない。蓋し消費組合員が言論に集會に現在の生活必需費の高き理由を言明し、聲明し、依つて以て全國的にその烽火を擧げることである。無産階級に對し低廉な商品を供給すると云ふ經濟組織は、當然なくてはならぬものであつて、出來得る限りあらゆる手段を盡して之が達成を期さなければならない。

次第に消費組合が偉大な集團運動となり、從つて又一の堅實な經濟的要素となればなる程、消費組合は經濟的應急策なりとする境地を脱出して、普遍的な社會的意味を獲得するに至る。かくの如くして消費組合は個人主義的資本主義的な經濟形態から變じて社會的共同經濟を營む經濟形態に移り行く過程を進捗させる。而してかの無利潤主義と功妙な經

營手段の共有とは、益々人々をして消費組合の眞價を認めしめるのであるが、是等の方針を定めるに當つて爲された努力は常に前面に現れ、一の意識的に且つ願望的に獲ち得たる目的となる。而もその目的は、比較的少數の人間に對する（ブルジョアジー）大多數の人間――生産手段の所有者（プロレタリアート）の經濟的從屬關係を除去すべき理念に役立つべきこととなるのである。此の目的は、マルクスの見解に從へば、政治活動によつてのみ貫徹され得る。即ち政治的手段によつてのみ之が解決を招致し得られるのである。而もそれがその背後にそれ自體の經濟的成熟期の到來を促進させることに役立つのである、と。成程、かゝる事實は、發達段階にある勞働組合にあつては最も重要な問題であり得るだらうと云ふのは、もしも勞働者階級が政治的權力を獲得した場合には、是等勞働者階級は、先づ以て必然的に經濟的な新形態を齎ち得られるからである。

が然し、經濟的協同態の構成要素は、全然その當初からして此の新形態と同一態樣のものであつて、從つてこれが直ちに資本主義的經濟狀態を變じて社會主義的經濟狀態へ移さしめる大きな意義を持つものなのである。

故に、現今の消費組合、殊に勞働者的消費組合は、協同組合の思想を以て、勞働階級の利益に役立つやう利用させるために重大な問題を樹立したければならない。乍然、既往の市民的協同組合論者には、此の問題は到底考へ得べくもない理論なのである。と云ふのは、彼等の論旨は協同組合とは唯商品を購入し再び之を賣却することにあるから、小賣商に於ける利害關係と切り離して考へるべき性質のものではない。協同組合がその經濟的利害關係に於て他の階級を脅威するが如きは正義の觀念に出づるものではない、と云ふのである。成程、それは要するに非進歩的中間階級の論理である。協同組合は進歩的な一要素でなければならないのだし、又事實そうなのである。從つて、我々はかくの如く進歩的特質の内容に對し限界を設ける事に對し反對せざるを得ないのである。協同組合は資本主義と鬪爭しつゝそれ自體の理想に向つて着々進んで行くと共に、愈々益々無産階級の立場を明かにして行かなければならない。

愛國貯金の解剖

奥榮一

全國勤儉奬勵婦人團體協議會は愛國貯金會と云ふものをこしらへて、我國の內外債約五十二億圓を返濟しやうと云ふ方法をたてた。それは、我國の總人口約六千萬人が毎日一錢づゝ貯金する事にすると、現在の外債約十五億が六ケ月で返濟する事になるから、この調子で續けて行けば五十二億の內外債もやがて返濟する事が出來ると云ふのである。

おぎあと生れた赤ん坊から、飯が食へなくつて死にかゝつてゐる人間まで入れて果して一日一錢貯金が出來るものか出來ないものか、まあそれは別問題としても一體我國の內外債は年々どんな風に增加しつゝあるか考へてみる必要がある。統計によると丁度十年で二倍以上になる事になつてゐる。かりに一日一錢の貯金が實行されるとしても五十二億圓の內外債を返濟するには約二十年かゝると見ねばなるまい。ところで過去十年の割合で行くと、內外債は二十年後には約二百億圓以上、それから一錢貯金の五十二億圓を差引くと約百五十億圓殘るわけになる。もつとも最近發表した新豫算案によると、政府は合計九千五百萬圓餘の國債償還金を計上してゐるが、その口の下から新規公債發行額一億五千萬圓との事である。國債を亂發すれば、その價格の下落するのは當然の事で、そうなれば一番困るのはブルジョアーで、政府の國債償還のコンタンもこゝにあると云はなければならない。

貯金などゝ云ふと、政府がしつかり金庫の中へでも入れてしまつて置てくれる物だと思ふかも知れないが、銀行貯金でも郵便貯金でも無産者から零細な金を集めて凡ゆる金融を通して、大口に資本家に貸す資本家はそれを金貸けをする爲めに利用してゐるのである

三井一家で一年に約二千五百萬圓、岩崎一家では約二千萬圓の純益がころげこんでゐる世の中だ。飲まず食はずの一錢貯金位で追ひつきさうな筈がない。昔噺に狸にばかされて一生懸命に牛の尻をのぞいてゐた男の話があるが牛の尻では仕方がない。せめて五錢白銅の穴からでも浮世のからくりを覗いて見るがよい。

人口食糧問題

人口食糧問題と云ふ事が、近頃かなり喧しい問題になつてゐるやうである。政府は新政策の主なるものとしてこれを揭げ、內閣直屬の調査機關を設置するとか云ふ事である。

我國の人々は每年七十萬人以上、最近には八十萬人以上增加しつゝある。現在の人口約六千萬人、朝鮮、臺灣、其他の殖民地を合せると約八千三百萬人以上もある處へ年々八十萬內外の人口が增加するとすれば、今後數十年間には一億數千萬の人口に到達する事は豫想するにかたくない。ではこの人口の恐るべき增加に對して我國の食糧の需給關係はどうなつてゐるかと云ふと、まづ主用食物である米の產額は、內地で約六千二百萬石（一九二十四年）朝鮮臺灣で約二千萬石、小麥は約四百萬石最近では年に米約三百萬石、小麥約四百萬石を輸入してゐるのである。つまり米と小麥だけで、合計七百萬石の食糧が不足してゐるわけで、其他の輸入食糧品を加へて金額にしてみると我國の食糧總額三十七八億圓の中、約三億圓の食糧を輸入してゐるのである。で人口の增加率が現在のやうな狀況で進んでゐる限り、近い將來には五億乃至十億の輸入を待たなければならないと云ふ事になる。

そこで、之に對して產兒調節による人口制限、海外移民、農耕地擴張、農地の整理農作法の改良、商工業立國策等、いろんな說や、方法が說かれ講じられてゐる。

無論、それ等の諸對策が、それぞれ相應の效果を持つものであるだらうは何人も疑はないであらうが、現在政治家や學者や、實業家達によつて說かれてゐる範圍では果して十分效果を擧げる事が出來るであらうか。極めて常識的な立場から見ても、その肯定を躊

踏しないではいられない。

　マルサスの人口制限説は大きな暗示としてならば兎に角、實際問題としては單なる夢想にすぎなかつた事は須知の事實である。尤も其後生れた新マルサス主義の主張は將來考究すべき餘地があるとしても、目下世論の的になつてゐる。サンガア夫人の産兒調節運動は、それ自身決して人口問題の對策として主張されてゐるものでなく、婦人問題、母性問題の立場から現はれたものだから、その消極的な影響はとにかく、此の人口問題の對策として選ぶ事は全然當を得たものでない。

　海外移民政策に於いては、侵略的領土擴張説の如きは、現在ではブルジョア政治家、ブルジョア學者でも否定してゐる處のもので、今更それを云々するまでもないが、平和的方法による移民政策も、現在の移民狀態を考へれば劃時代的な國際關係の變化を豫想しない限り、到底その對策として望むべからざる事は現在に於ける一ヶ年の增加人口を海外に送る爲め數十年の歳月を要した事實から見て明からな事である

　農耕地擴張策は二十餘年來既に實施されてゐるが、現在農耕地の全面積約六百萬町步（內地）擴張し得べき耕地約二百萬町步（大正七年度政政府調）で然も近年に於ける增加率は年平均二萬町步に過ぎない。其人口密度に於て世界有數の地位を占め、山岳の多い我國に於て現在のやうな方法では、果して當局者が期待するやうな效果を擧げ得るかどうか、それ自身既に疑問であるが、まして、この種の事業が常にブルジョア階級と政黨者流の好餌となつて失敗してゐる事を考へれば、一層その觀が深い、朝鮮。臺灣等に於てもほゞ同じ理由を擧げる事が出來る。其他農作法の改良等に置いても現在の最も深刻な社會問題の一つである地主對小作人の問題をそのまゝにして、その實現を、その效果を期待する事は社會的ギマンでなければ、餘りに御目出度い考へであると云はなければならない。（此點に關しては我國消費組合運動の先覺者岡本利吉氏は、その主張する處に基いた、共働主義の立場から未耕地開墾の新事業を計畫されてゐるが、同氏の立場が新しい人世觀、社會觀の上に立つてゐるものであるだけに、大きな期待を持つて見るべきであらう。）

　以上の諸種の食糧增加案に對して別個の立場から人口問題を解決せんとするのが、所謂商工業立國策である。それは前記の食糧增加案は、要するに消


無産政黨
既成政黨会館
婦人参政權岸

極的な姑息案であつて、我國の現状より到底期待すべからざるものであるから我國を商工業國として發達せしめる事によつて、其過剰な人口を養はうとする説である。

然し、天産物の豊かでない我國が、その源料を海外に仰ぐ事を必須條件として、然も勞働賃金、勞働時間の國際的平等化と云ふ當然の趨勢の許に資本主義的自由競走の益々ゲキ烈を加へつゝある國際市場に於て、その國内或は領土内に豊富な原料を持つてゐる諸外國に伍して、然も保護關税の障壁を乘越えて頭角を現はさうとする事は、餘りにも非現實的な妄想と云はなければならない。

工業國としてその發展を期する事の出來ない國が同様の理由によつて、商業國としての發展を豫想する事も出來ないであろう事は當然である。國際的商業が單なるブロカーとして存在してゐたのは遠い過去の事である。さう考へて來ると、我國の人口食糧問題は之を對内的に見ても、對外的に見ても、必然的に資本主義的經濟組織と云ふ大きな暗焦に打つからざるを得ないのである。さうして世界の各國が軍國的侵略主義を塗り代へた資本主義的侵略主義をとつてゐる間は、いかんともする事の出來ない問題であると云はなければならない。

雜誌協會と無産婦人雜誌

東京府及大阪府の雜誌發行業者達によつて、雜誌協會と云ふものが出來てゐる。

細い規約は知らないが、この協會に入らない雜誌は新刊雜誌の元取次業者も小賣商人も其雜誌を取扱はない事になつてゐる。

處でこの協會は如何なる理由か最近婦人雜誌に限り定價四十錢以下の雜誌は會員として取扱はない規定になつたとの事である。

これに依つて滿天下の婦人は、莫大な資本と、尨大な發行部數を持つた華麗な印刷と、上品な記事と、高貴な戀愛小説と、上等の賣藥廣告とを滿載した、所謂婦人雜誌以外に、貧乏人共が零細な金で、貧乏人達の爲めに作つたけち臭い婦人雜誌の影を再びあの店頭に於て見る事が出來なくなつたのである。（四十九頁につゞく）

機織る音（民謡）

白鳥省吾

雪は降る降る
深山の路に
ゆるむ草鞋を
結ふ手も凍る

人も通らず
小鳥も啼かず
雪は舞ふのみ
降りつむばかり。

思ひかけなや
とんとんからり
誰か機織る
谷間の家よ

雪よ降れ降れ
夢温かに
生きる乙女を
われ想ふ。

職業婦人として

開地敏子

婦人の立場から論じ度い問題は多々ある。だが、經濟的に解決を與へないでの、婦人問題ならば――經濟的に目醒め、經濟に立脚しない――如何に其論旨が秩序整然として、理智的、倫理的、感情的には一點指摘する點がないにしても、要するに砂上の樓閣であり机上の空論に過ぎない。

此意味に於て、私は女性を經濟的に解放されることを望む。

女性の經濟的解放とは、女性であると云ふハンディキャップなしに實力ある女性には、男子同樣の賃金を與へよと云ふことである。

×

然るが故に、私達は樣々の差別待遇を受けて居る。それは法律上は勿論、道德上にも日常生活上にも……。

併し其内で一等私が不平として呼びたいのは、女性の賃金問題である。

女工然り、教育者然り、女事務員然り、總てのものが、女を雇へば安いからと云ふ先入觀念のものとに、女だからこれ位で結構だと云ふ因襲で、常に男より安い賃金で滿足させられてゐると私は思ふ。

×

現在の狀態では、男より女が必要だから女を使用するのではなく、男より女の賃金が安いから、ソロバンづくで女を雇傭する資本家の方が多いのである、これは女の侮辱ではないか、男に比較して女の方が成績がよいから女を使用する。そして女の實力に對して正當な賃金を支拂ふ、男女の區別なく……と云ふのが私の理想である。

×

女は如何に技術に熟練しても如何に男子より能率があがつても女の給料は或一定の程度より昇給しない。斯く女が經濟的に制限され、壓迫を受けねばならぬ間は、向上仕樣としても向上が出來ない。女はどうしても男の御機嫌を取つて男に養つて貰ふ被征服者の地位に甘んじてゐなければならない。

女だから社長になれない。女だから五百圓の給料は高すぎる、女だから、女だからと、經濟的に機會均等の道が開かれてないからこそ、女は男と對等

の御交際が出來ないのである。

×

私は廢娼運動よりも、婦人參政權運動よりも、女子の經濟的機會均等を先づ第一に主張したい。

×

世間を見よ、何と女は安い賃金でうごめいてゐるか。婦人の實力は少しも認められない。女なるが故に安い賃金で雇はれてゐる。

女の高給取りが、藝者と、娼妓と、結髪美顏術師と、ほんの少數のめぐまれた人達であるとは、誠に女性のために心細い。

婦人を經濟的に解放せよ、婦人の實力を認めよ、女が經濟的に解放されて獨立自營が出來れば、女の地位は自然に向上するのである。

編輯室にて（つゞき）

奥むめお

一月號に私の書いた部分が非常にすくなかつたといふことに就いてたよりを下さつた山下さん（長野）松野さん（大阪）木下さん（長野）伊藤さん（福井）山田さん（長崎）成田さん（仙台）大庭さん吉村さん平山さん（東京）その他の皆樣へ。今月は自分では一つも書かないでしまひましたので熱心に讀んでゐて下さる方々には申わけのない事でありますが、然し私としてはその間决してナマケてゐたのではなくて――いや、反つて重要なことで忙く働きつゞけてゐたのですからその仕事について報告がはりに、お知らせをさせて頂きませう。

近年各方面からいろ〳〵な婦人運動が起つて來ましたが、工場に働く婦人の諸問題職業婦人の問題、坑婦の問題、その他母性保護に關する諸問題などの最も重大な方面がとかく忘れられがちであつたと思ふのであります。今度いよ〳〵さういふ當面の婦人問題解決のために新しい團體を作つて進まうといふ事になつたのです。何れ委しい事は來月號に書きますが、少なからぬ婦人の團體があるのに、どれもこれもかういふ重要問題を置忘れてお道樂半分のいさごさに貴い時間と金子と精力を費してゐるのをみてゐるに堪へず私たちが起ち上つたわけです。

昭和二年をして、婦人として意義ある社會的活動に入る朝にしなければならぬと私は思ふのです。ほんとうの婦人運動はこんなものだ！ と私たちは私たちの實際を以て世に示さねばならないのです。

どうぞ皆さんも私たちの企てに來り加つて下さい！

われに職業を與へよ。然らざればパンを！

――小原、帆足利一郎、羽仁もと子、長谷川如是閑氏と婦人職業問題――

X Y Z

「婦人の友」一月號に出てゐる名流の先生方の講話會の記事をおよみでしたか。いろんな問題にわたつてそれ〴〵のメイ論タク說をのべてゐられるのですが、なかんづく職業婦人の一人として私の心を摑みましたのは、最後の「婦人と職業の問題」のそれでありました。

何？お里は爭はれない、と仰言るのですか。えいえい、さうでございますとも、この繊弱い二本づゝの手と足とを命の綱に月額三十幾圓のサラリーを買ふために朝な朝な會社通ひをしてやつとほそぼその生命の煙を立てゝゐるその、職業の婦人でございますもの。職業婦人の問題は卽私の問題、何でうかつに見のがし得ますものか。

ところで先生方の御意見をこゝに少し引つこ拔いて來たいと思ふのですが、あとで貴重な「婦人運動」の幾頁をこんなつまらぬ世迷言でつぶしたのは誰だッ！とお叱りをうけるやうな結果となりはせぬかと心配もありますが、まあ、これも私たち職業婦人の解放のための一つの犧牲として皆さんお見逃し下さいませ。

小原氏は教育界に有名な新人とかれて聞いてゐましたが、職業婦人問題だけはそれを味得するには又別の臍味噌を必要とするらしく、

小原『女として、お母さんとして大切なことは、職業をもたぬことではないでせうか……職業を得るための女子教育だつたらそれはごういふものですかねえ』

と長嘆息をしてゐられます。このせち辛い、失業者が巷に充ち、婦人職業界の遊軍が家庭に學校に職業紹介所にみち溢れてゐる世の中に、職業をうるための教育さへ私たち階級の娘たちは受けることが出來なくてお茶汲みか給仕程度以上の高級職業婦人にはなる術もなく月收三十圓内外に有難涙を流しつゝ三年五年と、われ等にとぢ薹階級のわが愛するあなた！にめぐり會ふ日を待ちわびてゐるのですわ、と云つても、おそらくは氏には理解して貰ふことが出來ますまいよ。

と、賢妻を持つことで評判の帆足理一郎氏は鋭く小原氏につつこんで、

帆足『すると、結婚するために女子教育をやるといふことになるのですね……母になるための女子教育、とすれば男子にも、父になるための教育が必要といふことになるわけでないですか』

と云つてゐられるのですけれど、さて、「根本的には、まづ女は第一人間として生きてゆくことの出來る職業訓練をうくべきものだと思ひ升。さうして結婚した場合には、その方面には男子があたるから、女は家庭の方に力を集注してゆく、かう原則をおくべきものと思ひます』

と、節約したお金子で文化邸宅を建てられたといふ帆足氏階級の人たちにしか通用しさうにない原則を以て、今の職業婦人界を律しやうとしてゐられるのです。私の友

人は、晝のべんとうと夜のべんとうを二つ、四つと六つのきやうだいに背負はせて託兒所にやりつゝ勤めをしてゐます。その夫だつて一倍勤勉で賞められ者の働き盛りですけれど、夫の收入だけでは田舍の兩親への仕送りが出來ないのです。

羽仁とも子氏は、『私は正直な心から健全な婦人の生活に職業の必要を認め、家庭の外の社會も亦、女性の手と頭を多く要するものだといふことを痛感します。

どうか婦人がその才能と境遇に適する職業をもつことが可能になるやうに、家庭も社會もよき理解をもつて助けて頂きたいと思ひます』

と云つてゐられますが、今の『婦人の友』誌が未だ生れるか生れないか頃の氏の惡戰苦鬪ぶりをよく人から傳へ聞いてゐる私は又、古い女記者としてにがい經驗を經てゐられる氏が、今の社會が、女を、わけて職業で立たうとしてゐる女をどんな鹽梅に遇してゐるか、よく知つてゐられる筈だと思ひます。

いつぞや奥むお氏が演說の中で仰言つてゐた一言を私は忘れられません——女の職業が盛んになつた、と云ふ事を、私たち女として喜ぶことが出來るでせうか。何故、女の職業分野が擴大されてゆきました？女は廉あがりになるから、女は使ひ易いから、女は團結して文句を並べたりしないから、等々。一つとして、今の社會が女の職業生活に對して理解をもつてからのことではないのであります。私たちは女として、今日の婦人職業の伸展を喜ぶ前に、慨かればならない、憤られればならないものが非常に多いことを知るべきであります』と。羽仁氏のいはゆる、よき理解をもつて助けて貰ふ等の希望を、私たちが今の社會にもつならばそれこそ闇夜に月影を待つやうなものではありますまいか。——だからこそ私如きか弱い者でも、職業婦人の一人として越し方行末のことなど思ふときに、この儘安閑としてはゐられぬと思ふのであります。

最後に長谷川如是閑氏は、胸のスッとするやうな言を述べてゐられます。問題を提供すると云ふに留つて、では今日の職業婦人の問題をどうすればいゝか、には觸れてゐられないので物足りない事ではありますが。

長谷川如見閑氏「皆さんのお話は大體女性の職業の肯定に置つたやうですが、そして私もむろんそれに異議がありませんが、皆さんの云つてゐられる『婦人の職業』「職業婦人」といふのは、職業をやるまいと思へばやらずにすむのだが遊んでゐるのは——茶や生花や遊藝を習つてゐるのも遊んでゐるのであらう——人間として相すまぬ次第だし、又職業をとつた方が「人間として」いゝ事だからとる事にするといふ風の意味であるらしい。

これは皆さんが職業に對して、さういふ態度なり、考へなりを持つてゐる事の出來る身分の方々だから、だと思ひます。

私は實は肝違いをして今日の社會問題としての婦人職業の問題を扱はれるのだと思つてゐたのでした。今日の、社會問題としての婦人職業の問題は、私の考へとしては——恐らく誰の考へとしても——いやでも應でも職業をとらればならぬ婦人、職業なしには生きてゆけぬ婦人の問題です。それが「人間として」どうであらうがなからうが、職業がなかつたら生きてゐられない婦人の問題です。

『我れに職業を與へよ、然らざればパンを與へよ』と叫ばればならぬ婦人の問題です

（四十九頁につゞく）

婦人と食糧及び農村問題

中澤辨次郎

一、農村問題と婦人

農村問題は決して農村に棲むで居る人達丈けの問題であつたり、亦は男性丈けに限つた問題ではありません。農村以外に生活して居る人達、特には都市の婦人達に對しても、其の經濟生活、社會生活に密接の關係を持つた問題であります。特に此の問題は、之れを延長すれば直に食糧問題に直面する問題でありますから、其の部分が最も直接に婦人生活に干係して居ると思ひます。例へば今日農村には小作問題が起つて居ります。小作問題とは言ふ迄もなく地主と小作人間に於ける爭議を中心として起される種々の問題を指して居ります。所が彼等は目今爭ふことに急にして、少しく耕作の手を怠り勝ちにして居ります。そうかと思へば亦一方に於いては、今日の資本主義制度の下に於いて、原始産業たる百姓（農業）をして居たのでは、滿足に食ふことさへも出來ないと云ふので、農業を忌避しやうとする者が澤山出て居ります。之れが若し將來迄も一般農業者の辿らんとする經路であると假りに見做すならば、お互は此處で大いに考へねばならぬと思ひます。それは私共が將來も日本の農民に依つて生産された、日本特有の風味を有するお米の御飯を食べて行かうとする限り何人も此の問題の前に無關心で居ることは出來ないからであります。

今日では未だ以上のやうな趨勢が左程進むでは居りませんが、我々はそれでも今日まで變動常なき米價の爲に生活を可なり飜弄されて居ります。況んや之れが前述の如き事態の招來された暁に於ける米價問題、亦それを中心として起

される各種の社會問題の將來を考へると洵に寒心に堪えないものがあります。此處に於いてか、私共は食糧問題と云ふ過程を中間に置いて考へることに依つて、忽ち農村問題に正面して參るのであります。然るに今日まで農村問題と言へば、何かしらその頭に『農村』と云ふ二字の付くことに依つて都を遠く離れた片田舎の人達ち丈けに關聯した問題であるかの如く考へ違ひをされて居て、此の問題が御婦人方に依つて、眞面目に研究されて居らなかつたことを遺憾に存じます。

二、負擔荷重に苦しむ農民

只今世の中で農村問題として取扱はれて居る内には、可なり各種の問題があります。例を擧げれば地主小作人間に横たはる社會問題政治問題、經濟問題（之れは一般農民の經濟問題にも共通した問題です）を初めとして、教育の問題衛生の問題、娯樂の問題、金融の問題等の各種に跨つて居ります。さうして之れ等各種の問題は、夫れ〳〵有機的關係の下に起り、決して一つ〳〵分立した問題とはなつて居りません。けれどもその間問題に多少の輕重はあります。故に私は今日解決することの最も必要なる問題は何かと、若し問ふ人があるなら、言下に農民全般に同じ樣に問題とされねばならない經濟の問題であると斷言して憚りません。例へば今日の農民は工業者の約三倍、商業者の約二倍の公課を負擔して居ります即ち左の如くであります。

公課種別	農業者 圓	商業者 圓	工業者 圓
收益額	五、八八三	五、五六九	五、五六七
國税負擔額	五〇九	四四六	二八二
縣税負擔額	四〇八	一六〇	八〇
市町村税負擔額	一、〇六三	二二九	二〇九
負擔額總計	一、九八〇	八三五	五七一
收益に對する負擔額	〇、三三六五	〇、一四九八	〇、一〇二六
同 負擔額比較	一〇〇	四五	三一

彼等は斯くの如く大なる負擔をして居りますが、之れに比例する收益があれば、問題はないのであります。然るに今日の農民收益位尠いものは恐らく他に其の比を見ない所でありませう。農民男一人當りの勞銀は、自家勞働では大正の今日、五十錢以上を出て居りません。大部分は四十錢內外、女一人の勞働報酬は二十錢乃至三十錢內外に止まります。之れが自家の器具を扱ひ、自家手持の辨當で自分の仕

事をする場合の勞働報酬であるのだから、實に驚歎するの外はありません。斯くの如き僅少な報酬に甘んじなければならない農民に、文化生活もなければ、生活向上もあつたものではありません。

三、農民の農業忌避的傾向

のみならず、今日の農業は、大きな資本主義經濟の影響を蒙り、それに大なる牽制を受けて居ります。そうしてその經濟制度に、農業本來の性質から、同化し順應し切り得ずに居ります。例へば今日の總ての商工業は、大部分、資本主義經濟制度の下に、統制ある組織的經營をやつて居つて、彌が上にも能率の增進を計り、收益の增加を企てゝ居ります。然るに農業は、天候の、支配を受けることゝ、自然の地勢に依る支配と、今一つは農民そのものが非常に保守的である結果、その經營法が如何にも非資本主義的であり、個々分立的の小規模經營であります。從つて農法は極端に言へば三千年來大なる進歩を告げて居らないと申しても敢て過言ではないと思ひます。今日の農民がやつて居る鋤鍬一點張りの耕耘法は、神武時

代の遺習を踏襲して居る以外に一歩も出て居りません（其の間多少の技術的進歩は認め得るにせよ）從つて今日の農業は統制ある組織經營が行はれずに居ります。之れは勿論前述の如く我が國の農業が地勢と自然の支配を受ける所から來る農業の缺陷であります。而して此の缺陷も農業を商工業のそれの如く資本主義的組織經營をすることに依つて或る程度まで取り除くことは出來ますが、それには言ふ迄もなく、地勢と自然の支配下に於ける一定の限界がありますのみならず、その限界に到達しない內に、可なり大なる資本を投下することを必要とします。然し乍ら今日の農民には此の資本を投下する經濟的能力を持ちません。自身に能力がなければ第三者から借り入れゝば宜しいやうなものゝ、農業の如く薄利な仕事には、何人も進むで資金を投下してやらうと言ふ者がありません。其處で今日の農民は、農業に從前の如き熱意を以つて働くことが出來なくなりました。モット積極的言ひ方をすれば、進むで農業に從事することを嫌ふやうになりました。之れ等の事實は農政學者の言ふ農民の農業忌避的傾向であります。

農業に從事して居たのでは、滿足に人間らしい生活が出來

ないと云ふので、今日の農民は、農業に對する從來の如き執着を全然持たなくなりました。それなら彼等は何うするかと言ふと、漸次農業を捨てゝ他に轉業しやうとして居ります。少くとも、農業よりも有利でそうして樂の出來る仕事を選擇しやうとして居ます。言ふ迄もなく農民と雖も今日は一個の經濟人です。儲からぬ仕事で骨の折れる方面の事業に從事したくないと云ふのは人間として當然のことだと思ひます。が此處に學者の言ふ農民の離村轉職の問題が發生し、同時に人口の都會集中問題が起り、土地の荒廢、農村の不振、延いては國家の食糧問題となつて現はれる理由が潛在するのであります。

四、食料不足の事實と生活不安

御承知の如く我國に於ては、我々の日常必要とする食糧の自給が出來ないで居ります。年々多額の食糧を外國から輸入して、僅にその需要を充たしてゐると云ふ狀態であります今假に我々の主食品である米だけに就て調べて見ても、年々大なる不足を告げて居ります。最近の平均によりますと、左表によつて知られる如く、五百萬石以上六百萬石近くの不足であります。

年次	產額	消費額	不足輸入
	石	石	石
大正元年以上五ヶ年平均	五〇、三五三、八六六	五二、六一六、六三六	二、二六二、七七〇
大正六年以上五ヶ年平均	五四、三七二、一五九	五七、〇六八、八五六	二、六九六、六九七
大正十二年以上五ヶ年平均	五八、九二〇、八八三	六四、六八六、三八六	五、七六五、五〇三
同　上三ヶ年平均	五八、六九四、七一二	六五、二九六、六〇四	五、六〇一、八九二

（備考）本表は穀年度自十一月一日至翌年十月三十日の需給表で農商務省食糧局内地に於ける米麥の需給及價格表二、三頁に依りました。

斯くの如く大なる不足を告げて居るにも拘はらず、大正十年度の如きは農業をよして、他に轉職した農家戸數が、二萬八千八百八十二戸もありました。翌十一年に於ては一萬六千七百一戸（神奈川縣の分を除く）ありました。此の結果として、大正十年度には約五千町歩の土地が、耕作者の手から百姓をしない地主の手に返還されました。翌十一年には、一萬町歩の土地が同じく返還されて、その大半は荒廢するが儘に放任されて居ります。斯くの如くして次第に進めば、さらでだに不足を告げて居る我が國の食糧供給の給源は、その本源を絶たれるのでありますから、此處に恐る可き多額の不足を告げ、誠に由々しき食糧

問題が發生しずには居りません。此の場合に於ける米價は勿論臺所經濟を司る御婦人方の經濟を脅威しずには居りません、私が最初に於いて、農村問題は一に食糧問題であるから、一般婦人にも直接の干係を持つた問題であると申したのも、實にその理由を此處に有するのであります。而も斯くの如き不足が、單に米丈けに限れるなら宜しい。即ち米が不足するなら、米以外の食糧を混食することに依つても、之れを補充し得る途が立ちますが、我が國に於ける食糧の不足は、單に米丈けに限りません。其の他の補助食糧の大部分も不足して居ります。米に次ぎ我が國で最も消費されて居るものは、麥類であります。此の內大麥、裸麥は足らなければ足らないなりに、輸入もせずに居りますが、近來生活の向上する程度に比例して、我が國に於いても、世界共通の食糧である小麥の消費が非常に旺盛を極め、且その不足額が米に讓らない程多額に上つて參りました。即ち左の如くであります。

年次	産額	消費額	不足輸入額
	石	石	石
大正 七年	六、四三一、四七一	七、五五九、七三八	一、一二八、二六七
同 八年	六、三六〇、三四七	六、九六七、三三七	二、六〇六、三八〇
同 九年	五、八九〇、八五八	六、九〇五、〇四六	一、〇一四、一八七
同 十年	五、五八二、二〇〇	一〇、五三六、〇二〇	四、九五三、八二〇
同 十一年	五、七二六、六二二	八、二八三、四三六	二、五五六、八一四
同 十二年	五、一九二、〇六〇	一〇、三五六、〇九六	五、一六四、〇三六
最近五ヶ年平均	五、九九八、四〇〇	八、四五〇、二九二	二、四五一、八九二

之れに依つて見ますと、年々産額が減少の傾向を示し、それに反比例して輸入額が漸次增大して居ります申す迄もなく此の事實は農民が今までの方法で此の種の作物を作つて居たのでは、その生計すら維持することが出來ないので、次第に此の種の作物を作らなく爲つた結果に外なりません。換言すれば今日の我國の農業は、それに從事する農民の生活に收支不償を告げしめ、その反對現象として、農民以外の一般社會の人に對し、生活不安の素因を與へて居るのであります。

五、農民は斯くて窮迫し行く

それならば何故に我が國の農業は、不利益であつて、それに從事する農民を、その業務に安定させることが出來ないのか。私は先づ論の順序としてこの點を明かにしなければなりません。

實を言ふと農業の如く我々人間の日常生活に必要なる物資

を供給する職業は、いはゆる必要原理の上から言つて、相當に有利な仕事として成立して居なければなりません。

然るに生活に最も必要なる物資を供給する農民の職業は、今日最も危險にして、而も不利な職業であります。その理由は簡單明瞭であります。農業に強く働く自然特に天候の如何、並に報酬漸減の法則は暫く別問題として除外的に考へても、我國の農業の如く、その經營規模が狹小であつて而も其の小面積の耕地が、甲乙丙丁と縱横に入り亂れて交錯的に所在して居る狀態で、到底此の間に能率的經營をなすことが出來ないのであります。のみならず人口に比して土地が狹小過ぎる結果、從來は耕地の逼迫を告げ、之れが爭奪競爭を盛んに行ひました。其の爲め土地の時價は收益價値には全然關係なく投機的にどし〳〵暴騰して行きました。學者は此價格を名付けて土地が經濟的價値から社會的價値に進むだのであると申しました。其の結果として一反歩の價格がツイ四五年前には千五六百圓内外に騰貴しました。一反と言へば米の取れ高は精々二石内外であります。此の場合米價が一石五十圓しても、その全收益は百圓しかありません。此の中から、勞賃、肥料、種子代、農具費、公課を支拂へば、恐らく其の利廻りを二三歩以上に見る事は困難であります。斯様にして土地の價格が上つて終つては例へ、自作農であつても、その農業經營は極めて不利であります。

然るに多くの小作者は斯様の場合更に小作地の爭奪競爭として、收穫高の殆んど三分の二を小作料として支拂ふまでに競爭したことがありました。從つて此の種の階級の小作經營なるものが、如何に不利益であつたかは、言語に絶して居ります。此處に於いてか、最初に現はれたものは、消極的農村の社會問題たる、農民の子弟を都市の勞働市場に向けて、賃銀奴隷たらしむることでありました。幾何かの金に自分の子女を代ゆる事に依つて、農業より受ける不利益を補顛しやうとしたのであります。偶々此の事情が具體化されては、女工となつて工場に現はれ、女中となつて都市の家庭に於ける臺所に現はれ、甚だしきは人肉の市にまでその勞働販路を延長することもあつたのであります。然し乍ら斯様な姑息な方法で、根本に於いて有利經營と相容れない狀態にある農民の經濟が挽回されるものではありませんでした。彼等が焦慮すればする程、彼等の經濟的環境は彼等に不利な條件を齎すので

ありました。即ち偶々多少でも家計の補助をなさしむ可く、子弟を都會の勞働市場に向けて排出すれば久しからずして、ミイラ取りがミイラになるやうに都市の熱烈なる憧憬者となつて、再び故鄕に歸らうとする者はなく、從つて勞賃の仕送りも杜絕する。過つて歸鄕するものは、故鄕に飾る錦とは似ても似つかぬ花柳病の傳播者となつたり、恐る可き不治の病驅者であつたりして、却て父兄の經濟的負擔を荷重する者許りでありました。斯くの如くして今日の農民は、次第に窮迫のドン底に陷るに到りました。

六、小作人生活の窮狀

今日までの世諺に『稼ぐに追ひ付く貧乏なし』と云ふことがあります。然しながら此の世諺は農民の爲めには、社會に返上して了はねばなりません。而して其の反對に『稼ぐに追ひ越す貧乏』と改めて、農民に示す必要が皮肉にも生じて參りました。之れは洵に遺憾の事でありますが、農村そのものの上からのみ推斷すれば、決して此の言は虛妄の言ではありません彼等は農業をやめて他の勞働に就いた方が、何れだけ有利だか解りません。農業をして居れば、するに從つて貧乏して行きます。即ち左表は此の間の消息を事實が最も雄辯に立證致します。

米作反當り收支計算　（大正十三年九月調査）

一、支出の部

苗代の部

肥料　十六錢（紫雲英五貫代及人糞代）
種籾　一圓五錢（五升）
精選用鹽　五錢（一升）
勞費　二圓七錢（一人八分）
計　三圓三十三錢

本田の部

肥料　四圓〇七錢五厘
勞費　四十一圓〇一錢五厘（人の勞力三十人二歩一人一圓十五錢及耕牛代）
農具損料　二圓八十五錢（鍬、鎌、牛耕具稻扱器其他損料）
雜費　一圓四十七錢（俵及繩代）
計　四十九圓四十一錢
小作料　四十七圓三十錢（石三十圓替一石五斗七升六合七勺）
總合計　金壹百圓〇四錢

二、收入の部

米　六十九圓（二石三斗、一石當り三十圓）
糠　一圓五十錢（一斗）
粃　九十錢（三斗）
藁　四圓二十錢（六百把）
合計　七十五圓六十錢
收支差引金二四十圓四十四錢の不足

（以下次號）

既婚の男より未婚の婦人へ

白柳秀湖

見合結婚と動物の靈能

山に馬醉木といふ樹がある。犬や、馬がその葉を喰べると行歩蹣跚として惱む。併し犬や馬はよくその葉に毒のあることを知つて居て、滅多に之を食はぬ。山につゝじといふ木がある。羊がその葉を喰べると、四肢躑躅として苦む。併し羊はよくその葉に毒のあることを知つて居て、滅多に之を食はぬ。

人間はすべて叡智の働きで、理性的に物事を判斷するやうになつてから、下等動物の具備して居た靈妙な直覺力は大きに之を失つた形がある。併し、その痕跡は今も尙ほ明かに之を留めて居り、修養と工夫とによりては、或る程度まで之を呼びかへすことも出來る。

吾々が野外に出て草花を摘むに、一々植物學者の説明を俟たずとも、恐ろしい毒素を含んで居さうな花の色や、葉の調子は容易く之を直覺することが出來る。『毒々しい色』、『毒々しい形』かやうな感念の中には、私達の祖先が幾十萬年の原始生活を經る間に蓄積して來た貴重な經驗の結果が盛られて居るといふことも考へなければならぬ。人間の生活が複雜になり、唯、自己の保存と、種の保存とを司る本能の命令によ

つてのみ動いて居ることが許されなくなつてから、曾て吾々の祖先の具備した靈妙な直覺力は大部分喪失され、例へば毒物を知覺するにしても一々試驗管によることが必要となつて來た。さうして吾々が試驗管に頼り〳〵して居る間に初めの直覺力は大部分失はれてしまつたけれども、食物と異性とに對しては、尙ほそれが可なり有力に保存されて居るやうに思ふ。『毒々しい色』、『毒々しい形』吾々は吾々の實際生活に於いて、今少し此直覺力に敬意を拂ふ必要はないであらうか。吾々は餘りに此直覺力の價値を無視して、試驗管にのみ頼り過ぎては居ぬか。

　唯一度の見合で、一生の大事を決する今の結婚制度の若い男女に納得されぬのは尤もである。未婚の男女の十人が十人まで見合制度の不合理を力說し、戀愛を前提とする自由結婚を主張するのも無理はない。併し、さうして若い人達が、舊式の結婚を排斥し、見合制度の不合理を鳴らすのはよいが、その爲に吾々が、吾々の祖先から、吾々の中心に承け傳へて來た貴重な直覺力、靈妙な撰擇力までも、諸々の惡制度、惡習慣と共に、一炬に附してしまはうとするやうな愚に陷つては居ぬか。

見合制度は問題にならぬ、惡習慣であるといふが一體見合そのものが惡いのか、それとも見合制度に附帶する諸々の條件が惡いのか、その邊もよく考へて見る必要があらう。

唯物美學の體系の一片

　人間の好き嫌ひといふと一般からは如何にも道理や、說明を超絕した神秘、不可思議のものであるかのやうに思惟されて居るが、實は決してさうでない。例へば食物の好き嫌ひに就いて考へても、甘いものが好きであるといふのは、其人の生理狀態が、砂糖の或る成分を缺いて居るからである。酢つぱいものが好きであるといふのは、その人の生理狀態が、酸性の或るものを要求して居るからである。勿論人間には習慣といふものがあつて、榮養に關係のない刺戟性のものなどになると必ずしも此法則では行かぬのであるが、榮養の攝取は大體に於いて、其人の生理狀態に缺けて居るものを要求するといふことが出來る。酒呑みは總じて甘いものを食べぬといふことは、一般には甘いものが『嫌ひ』といふことになつて居るが、實は酒によつて、甘いものの主要成分である糖に飽いて居るからで、酒呑みに酒を禁じて見たら、一足飛びに大

の甘黨になつたといふことはよく聞く話である。小鳥の籠に毎日靑い菜の葉を入れてやるに、食べるのか、食べぬのか分らぬほどであるが、十日も間を置いて入れてやると、小鳥の生理狀態が、靑い菜の葉の或る成分に飢えて居るさまが手に取るやうに見うけられる。

　かやうに人間の好き嫌ひといふのも、決して道理や、說明を超絕した神祕、不可思議のものではない。異性間の好き嫌ひといふのも之と同じことではないか。甚しく肥つた男や甚しく瘦せた男や、容貌、體系の上に整齊、調和の美を缺いて居る男の嫌はれるのは、『不健康』の豫感が、本能的にその對手方の頭腦を支配するからではないか。吾々が子孫繁昌の爲に配偶を選ぶといふことは、吾々の祖先が却て下等動物であつた時代から今日まで、引續き對手方の健康を第一として選擇して來たものに相違なく、其選擇には殆ど理智も判斷も何も要らぬ。全く本能的に一見して之を決定することが出來る美學の先生は整齊だとか、調和だとか、鹿爪らしいことを云つて居るが、之を要するに人體に於ける整齊、調和は健康の現はれに過ぎぬ。健康は吾々の祖先が下等動物時代から配偶を選擇する唯一の標準として來た所のものである。吾々は本能的に之を直覺することの川來る靈能（神祕主義者らしい用語ではあるが）を具備して居るのだ。此靈能を世人は人間の好き嫌ひと呼んで、理窟や、說明を超絕したものゝやうに考へて居る。

　甚しく肥つたもの、甚しく瘦せたもの、甚しく整齊、調和の美を缺いたものゝ一般に嫌はれることは動かし難いことであるが、さうした極端な場合を除けての好き嫌ひは大分微妙なものである。併し如何に微妙であつても、その根本は同じである。選擇の標準は自分の生理狀態、健康狀態と一致する何ものかを摑まうとするのである。女は何處かゞ男親に似た男に初戀し、男は女親に何處かゞ似た女に初戀するなどいふが、それも要するに自分の生理狀態、健康狀態とよく吻合するものを選ぶといふことになるのである。

　かやうに考へて來ると、日本の見合制度にも却々よい部分があるやうに思はれる。最初の印象、人間の靈異な、微妙な直覺力による、最初の印象を尊重し、それによつて一生の大事を決するといふ點から考へると、見合も却々味なものである。併し見合程度の實際は何うであるかといふと、親とか媒妁人とか、親戚とか、友人とかいふものが寄つて集つて若

い人の直覺力にいろ〳〵のものを注入し、正しい本能の判斷を攪き亂さうとする。殊に婦人の場合は、本能の判斷を許さぬやうなことが夥しい。如何に僕が保守黨でも、此惡むべき本能の妨害者、攪亂者を惡む點に於いては、決して若い人達に後れるものでない。

僕が今一度結婚するなら

かやうに考へて來ると、見合は必ずしも惡いことでない。他の條件はすべて之を事實に照して調査すればよく分る。唯一つ、人任せに出來ぬ容貌、姿勢に對する自分の選擇、之を最初の印象で決定するといふことであれば、見合そのものは決して惡くない。唯、見合制度に附帶して、大切な最初の印象を妨げたり、攪き亂したりする邪魔ものがよくないのである。又、婦人の場合、その靈妙な本能の判斷を許さぬやうなことの多いのは、何も見合に限つたことでなく、全般のことに亘つて、婦人は今の社會からさういふ取扱ひをうけて居るのである。

西洋では一ケ月でも、二ケ月でも交際してから配偶をきめるなど云ふが、人間の異性に對する直覺力はそんな遲鈍なものではない。たとへば未婚の男女が、天國の事のやうにして憧れて居る自由戀愛、自由結婚でも、その成立は必ず僕のいふ最初の印象に在る。最初惡かつたものが、交際してよくなつたとか、その知識、趣味、信仰を知つてよくなつたとかいふやうなことは決してあるものでない。最初嫌であつたものは何處までも嫌である。唯、最初の印象の大によかつたものに、何か著しい缺點がありはせぬか、甚しく惡い習癖でもありはせぬかといふことは確に考ふべきであるが、實際からいふと、さうした著しい缺點や、惡い習癖は交際して見て知るよりも、確實な調査によつて知る方が、正確でもあり、又、捷徑でもある。又、西洋で一ケ月か、二ケ月か、交際して見て知るといふのも、決して世間の人の考へて居るやうな自由な奔放な交際ではなく、日本の見合のやうなことを二三度繰返してやることではないか。或は交際はホンの儀式で、それまでに大體が決せられて居るのではないかとも思ふ。

それから僕が見合を面白く思ふのは、所も知らず、名も知らず曾て一度も見たことのない兩性が、媒妁人によつて引合はされるといふことである。優生學の上から云つても、所も知らぬ名も知らぬ。清潔な健康な若い男女の相合ふのはよい

ことであらうし、又、戀愛の實際から云つても、所も知らぬ名も知らぬ異性が一目相見て激しい思慕の情に動かされたといふやうなのが、結婚してからも永續きがするやうである。世間ではさうした戀を恐ろしい浮氣な戀のやうに云つて居るが、近しく生活して居た爲に、中心にはお互に物足らぬ所のあつた男女が、或る機會から結合したといふやうな關係とくらべると、何程か純潔であり、何程か眞劍である。僕は見合結婚が、多くの場合に於いて所も知らぬ名も知らぬ男女の引合せである點を大きに面白く思ふ。

僕がモウ一度若くなれるものなら、僕はモウ決して自由結婚などいふことはせぬ。近しく生活して居た爲に心から感心もせぬ女にタッチすること、そしてその女から追ひかけられその女の親達から胸ぐら取つてギウ／＼云はされ、それで表面では盛に新しがり、舊習慣、舊制度を罵倒し、自分の親と喧嘩までして心にもない女と結婚するといふやうな、そんな自由戀愛、自由結婚はモウ眞平御免を蒙る。僕は誰が何と云つても舊式の見合でゆく。その代り、斷じて媒妁人や、親達の言ふことには耳を傾けぬ。義理もヘチマの皮もなく、何遍でも見合を仕直してホントに氣に入る女にブツ突かるまで見合でゆく。さうして所も知らぬ名も知らぬ淸潔な健康な女と結婚する。

――おく・えいち――

うちの小芋

うちの小芋に里ぶちつけて
江戸さやつたら學士になつた
學士やおかずになるものか

文化臺所

文化臺所電氣のコンロ
おまんま焚き焚ぎ料理の御本
奴隷のカロリはないものか

映畫と女性（その二）

「女王蜂」の取扱つた女性觀

新居格

グロリア・スワンソンは有名なスターではあるが、私の好きな俳優ではない。藝のうまい所があることを私は知らんでもない、だが、彼女の好まれるのはアメリカ風の選擇であらう。私は彼女の表情特に彼女の瞳なぞは明らかにきらひだ。それは別問題、こゝでは彼女が主演となつて演出した『女王蜂』の取扱つた女性觀に就いて云はうとするのだ

筋は簡單である。巨萬の富と天のなせる美貌をもつ一人の女性が幼少から我儘に育てられた。年頃になつて彼女の富と美貌とは多くの求婚者を引つける。そして幾度となく婚約してエンゲージリングが彼女のかぼそい指に嵌められる。だが、婚約の男から何かの意味で服從を命ぜられると癪にさわつて憤然としてリングを地上に投げ捨てる最後に現はれた青年は負けぬ魂であつた。で二人は事毎に衝突した。そうした衝突の最も大きな場合、彼が彼女に服從させよと云つたことから初まる。彼女は指環を投げ捨て馬に乗つて逃げ去る。男は馬で追ふ。野、山、林、斷崖、彼女の乗馬は斷崖を乗越えるが青年は斷崖から落ちて重傷をする。瀕死の重傷をした男を病院の一室で見た女はさすがに反省した。そして女は生まれ變つたやうな女らしい女になり。男の强さが悍馬のやうな女を救はずに男の持つ弱さが女性を救つたと云ふのが梗概である。

右の映畫を見て、私は主人公の女性が金持で我儘に育てあげられて我儘であることに反感をもちます。映畫の原題は『馴されない女性』と云ふのです。我儘で悍馬のやうな女が馴されて來ると云ふのだが、私は女性が馴される方法の何であれ馴らされねばならないと云ふことには反對です。馴される、では馴らすものは何かそれは男性だ、でなければ男性を中心にして基調にした世俗乃至道德だ。しかも、既成社會が因襲的につくり上げた觀念だ。その觀念によつて形ちづくられた敎育だ。

馴らされる必要はない。服從させら

れる理由はない。女性が馴らされなければならないなんてそんな理由が一體どこにあらう。女性は女性のもつ自動自律の動き方がある。女性そのものがその性能によつて自ら規範されたものがある筈です。それは女性自らが發見しうる規範で外の誰もから附與されるものではないと思はなければならないと思ひます。

女性全體の意識がそこまで行かないから馴らされたのです。馴らさるべきものと思はれてゐた譯でせう。女性は女性として自由であるべきもの、そして自動自律の動き方は女性のもつ、内部的に自發する聰明さが見出すのです

だが、『女王蜂』のヒーロインの持つ馴らされることにたいする不滿、强ゐられることにたいしてもつ反抗は私が右に云つたやうな理由からではなくて金持で我儘に育つたと云ふことから來てゐるだけです。だから、詰らないのです。言葉を換へて云ふなら馴らされることにたいする反抗が意識的でなくて無意識的であることがわるいのだと思へるのです。

それから男性のもつ弱い所が馴らされない女性を救ふと云ふのも問違ひなら、男性の高壓的な力で女性は服從されることを喜ぶものだとするのも間違ひだと思ひます。

だが、女性のうちにはこれまでの世紀の連續がもつた因襲で男性に强壓されることを喜ぶ性情がないとも云へないらしいのです。男性の强さ、それを愛すると云ふのならいゝ、だがそれは强壓されて喜ぶ心理とはちがひそうです。

全體として私は『女王蜂』の取扱つた女性觀を面白く思ひません。それはわれ〳〵には何でもないものです。むしろ無意味なものです。だが、觀點をブルジョアの既成觀念によつて見ると面白いものかも知れません。今の世間一般の親爺たちは娘さん達の敎訓映畫にするかも知れません。

私は映畫の取扱ふ女性觀がまだちつともほんとうの意味で新しいものでないことを殘念に思つてゐます。私はウイリアム・モオリスの理想卿なんか映畫化したら上品で面白くないかと思ふのです。特に『理想卿』に出て來る女性達の氣持をスクリーン上に寫し出せたらばと思ふのです。

わたしは新しい女性觀をもつたフィルムの出現を期待して止まない。今しばらくの空しいのぞみらしいけれど。

農村の婦人の生活

岡本利吉

何のために生活してゐるだらうか。そうした感じが農村の婦人だちを見て起る。

私が宿つた横田といふ爺さんと婆さんの家では、田と畑で一町ほど小作してゐる。爺さんは口癖のように朝起きは三文の德といふては、三時頃に起きた。婆さんも負けずに起きた。星のあかりで、干瓢の皮むきをしたり、煙草の皺のばしをしたり、私だけ寢てゐるわけにゆかないから、一處に起きてまご〳〵した。電燈はない。らんぷもない。かんてらを點して書見もできないので、爺さんと婆さんの仕事の邪魔にならぬよう、遠慮しながら身の上話を聞いたり、百姓の話を聞いたりした。

爺さんは五人衆の一人の次男坊に生れいい育ちだそうである。新宅を作つてもらつて、商賣もさしてもらうたこともある。性來の放蕩者で、家も田地も商賣も遊びの方へ使うてしまうた。婆さんが若いお嫁さん時代に、親戚から喧しく云はれて、ああいふ放蕩者は見限つてしまへと幾回も口說かれたが今に目が醒めるだらうと我慢してゐたとう〳〵目が醒めた。家も田地も商賣もなくなつて、女に捨てられて目が醒めたら、もう好い爺さんになつてゐた。爺さんと婆さんは睦じう、朝起は三文の德だと、好い氣嫌で毎朝三時に起きてゐる。親類からのつき合もなくなり、六十幾歳の今日でも、たつた二人で山の中の一町ほどの土地を小作してゐる。

日暮が來た。爺さんは買ひ置きの壺から燒酎を小だしして、私にも一杯をすすめようとした。かぶりをふると竹の筒から干からびた納豆を出して、これでもおあがりといふた。納豆もきらいだと答へると、漬物で茶でも飲んで吳れといはれた。私はその通にした。かんてらの暗いあかりの下で、ほてつた顔を浮き出しながら、昔を語る爺さんの心は若々しい。婆さんは何にも云はずに臺所をしてゐた。

人のいゝ婆さんのお嫁さん時代のような、農村の婦人だちの生活をみるに

付けて何のために生活してゐるだらうと、私は思はずにゐられない。

都會では婦人の解放といふことを聞くが、農村では婦人が解放されて、さて何處へ行かうか。

都會の婦人は不平を云ひながらも、大した重荷を負ふてをらぬ。農村の婦人を見るがいい。百姓は男と同じ程度にして、子供をおんぶし、子供に乳を呑ませ、子供を叱り、大ていの小作人の家へ宿乞にゆくと、この通り子供が多いのでと、斷はられる。

男と同じように百姓をし、男以外に子供を育て、男が酒を飲む間に臺所をする。養蠶でもする家なら、女は氣の安まる時がない。蠶がすみ、秋の刈入れがすみ、男の方はやれやれと、いろりの側で考へ事をしたり、氣のきいた青年は、新刊書など開いて見るのに、婦人の方は一年中の洗濯と裁縫を初めねばならぬ。農村に婦人を解放する途があらうか。農村の婦人は何の爲に生活してゐるであらうか。

姑のある家ではなほつらい。ご氣嫌を取る役は、婦人の專賣である。男であるから、女の心理はわからぬが、もし女と生れたなら、農村の女は、何の爲に生活してゐると答へていいであらう。

深刻な色々の問題が、我等の前に横はつてゐる。私は凡ての問題の中で、何の爲に生活してゐるかといふことを得心のいくまで考へて見たい。何よりも大さな問題は、これであるまいか。

そうした問題を考へもせず、答へもせず、たゞ無自覺だとか、解放だとかいふが、いつたい何を自覺し、どうして何處へ解放されるであらうか。

生活の重荷がくるしうて、あえぎ〳〵してゐる農村の婦人に、自覺がないなどと、實はひどい要求だと、私は同情してゐる。重荷を負うたきり、たちすくんでゐる農村の婦人に、自覺の考をする餘裕があらうか。彼等を自覺さして、一たいどうして何處へ解放しようと云ふのか。

農村の婦人にくらべて、お話にならぬほど暇のある都會の婦人だち、又た思想家と名の付く人達は、親切に農村婦人だちの生活を考へてあげなければならぬ。自覺がないとか、解放されてないとか、頭から惡たいを云はず、どうぞ彼等の爲に、親切に考へて上げて下さい。しかし農村婦人だちの實際生活を知らないでは、親切な考も空想になる。

百姓の女禮讃

高橋源一

農村の陰惨で深刻なとても都會人の想像出來ない蛆のやうな生活を、如實に見た時、そしてその生活の主體となつて石のやうな沈默と牛馬のやうな過重な負擔と、沙漠のやうな無味乾燥な生き方をしてゐる農民の女房を想はずにゐられない。

彼女達は都會の有閑階級の奥様達が夢にだに想像し得ない生活を續けてゐる職業婦人と云ふ名稱の定義がドーであつても農村の女房は明かな職業婦人だ百姓仕事の大部分はこれ等の女房の手や、娘さん達の手によつてなされてゐる、若し、百姓といふ勞作に女が加はらなかつたら百姓の生活はとてもやつて行けるものでない。

農村に於ける婦人の役目は全く主役だといふ感じがある。一日中男と一緒に野良に出て働く慣習の地方（主として田專門の地方）などは朝には男より早く起きて朝飯の用意をする、朝食がすめば後方付をする、そして野良に出る、男には休憩があつても女には殆どない、仕事の量から言へば男には劣るけれども身體と能率の歩合を考へるとやつぱり同じだ否女の方がより働く爲に餘計に努力をしてゐる、日本の臺所の不便と、食事の繁鎖なことはどれだけ農村婦人に重い荷を背負はせてゐることだらう、それに衣物にあれ、住居にあれ、皆女の手のかゝる仕事ばかりだ、百姓の妻としての一役を果した上に一家の嫁としての一役、（これは私の説明する迄もなくヒドイ役）をも果し加之、女として一番大切な母としての役目を引き受けてゐる、いろはかるたではないが律義者の子澤山で、概して子供が多い、五人六人は普通で、私のすぐ隣には七ツが頭で四人といふのがある、この家では八十以上になる老人と、六十の父とがゐて皆女房に死なれその婦人はたゞ一人でやつてゐる殆ど千手觀音樣のやうだとツク〴〵感心する。やつぱり近所だが丁度それと同じく七つが頭で四人といふ組で、加之乳が不足なのがある、不便な田舎、貧乏な農家のことだ、牛乳なんてものはない、

僅か粉ミルク位で我慢する、それもホントウに榮位しかあたへない、禍なるかな、母よ子よと言ひたい、私はこれ等の人達を見るといつも正しい意味の產兒制限を思ふ。

　最も人類として最下級な生活をつゞけ人類にとつて必要品を生產する農民のその重荷の大部分を背負つて石のやうな沈默と大地のやうな忍耐を續けてゐる農民婦人こそ、人類から禮讃されてよいものだと思ふ、この忍從と苦痛を見せ付けられてゐる若い婦人達は鐵鎖の重きを却つて輕しとして女工となる。甚だしいものは娼妓を志願する——一概に浮薄だと道學者は罵るだらうが、そのよつて來るところを考へると決して無理でない。

　文明とは金錢のあるものゝみが享樂じ得る甘酒である、だから農民婦人は文明とか文化とかの恩惠から絕緣されてゐる、この文明の香に浸りたいものが金を得る爲に都會へ出る、そこには苦痛を償つてあまりある官能の享樂が待つてゐる、それをひきとめやうとする勝つた何物が田園にあるか、何もない、從つて農村は女の饑饉だ、どうして田園が荒れずに居られやう。

　私がある敎會に行つた時雜談の末、信者の婦人（奧樣らしい人）が朝鮮の商人が、俥屋のおかみさんでも奧さんと言ふといつて朝鮮人の言葉を笑つて語つた、私はその時に言つた『一體日本では妻のことを奧樣、女房、お神さん、細君などゝいろ〳〵な差別的名稱がある、そして奧樣が立派で細君やお神さんが低級だと考へてゐるのはブルジョア的な觀念だ。堺枯川氏かの所謂奧樣業の有閑階級の婦人がお上品で、偉くて、人類の生產事業に辛勞してゐる勤勞階級の婦人が蔑視されるなんて甚だケシからん、ホントウに勤勞階級の婦人達はお神樣であり生佛であるんだ。奧樣だなんて奧の方に引込んで主人の働きに寄生する、否人類に寄生して、最も多く消費する階級を撲滅しなければ人類の永遠の幸福は來ない』と。職業婦人とは婦人が男子と對等に立つことでない、人類生存の爲に、各自がその與へられた仕事に精進することだ。

　私はホントーの職業婦人を農村に見る、奴隷解放は叫ばれねばならない、農村婦人の解放をおいてどこに眞の奴隷解放があるか、愛する我等の共働者である農村の婦人達が救はれた時、ホントーに人類が救はれた時だ。

健康保險法の正體

石貫徹

今年の一月一日から、勞働者保護の美名の下に健康保險法が實施された。

これに依つて、工場法の適用される工場勞働者、男八十三萬人、女九十八萬人、計百八十一萬人、鑛山勞働者男二十七萬人、女八萬人、計二百六十萬人は强制被保險者として、その他の勞働者と下給俸給生活者は任意包括被保險者として、多額の保險料を每月の給料から天引されることになつた。

健康保險法に依ると、被保險者が、病氣、負傷、分娩、死亡等した場合に、保險者(政府、直營の健康保險署、又は事業主が政府の認可を得て設立する健康保險組合)が療養の給付傷病の手當金、埋葬金、分娩費若しくは出產手當を支給するのである。

然るに、この法律に依つて保護される筈の勞働者が、有難涙を流す代りに、實際には、却つて反對の氣勢を日一日と高めて行つて、今や個々の經濟鬪爭から、全面的政治鬪爭に迄進展せんとして、政府の欺瞞政策に對する政治的爆露が始められて居るのである。

然らば、一見有難そうに見えるこの法律が、何故勞働者の不平不滿の的となつたかと云ふことを知るためには、先づ、この法律が制定された社會的根據と、資本家政府の眞意並に健康保險法そのものの正體をよく調べて見る必要がある。

後進國日本の資本主義は、變則的發展を遂げつつ、早くも最後の段階たる資本の沈落過程に合流してゐるのである。

かくの如き時代に於ては、資本家階級は次第に自己階級の搾取を支配的地位を維持することに困難を感じて來る。そこで彼等は斷末間のあがきとして、無產者階級を永遠に資本家階級の支配下に隷屬せしめ、搾取の對象物たらしめんが爲に政治的權力を亂用する。卽ち、資本家階級の代理人たる政府は、無產大衆の階級的擡頭を抑壓せんとして、一方に『治安維持法』『暴力行爲取締法』『勞働爭議調停法』『小作爭議調停法』等の政治的彈壓を加え、一方に社會政策の美名の下に無自覺なる無產大衆の階級意識を鈍らせんとする、欺瞞的懷柔政策の實施を餘儀なくする。

健康保險法は、政府の欺瞞的懷柔政策として典型的なものの一つである。彼等の眞意は之れによつて階級意識を鈍らし、無產大衆の團結を妨げ、或は旣成勞働組合を破壞して、階級鬪爭を緩和し、資本家階級の搾取と支配の壽命を引延さんとする陰謀に外ならないのである。

卽ち、資本家階級は、無自覺なる無產大衆に、一片のパン屑を投げ與へて資本主義の沒落を支へんとしてゐるである。否！彼等資本家階級は、資本家階級の搾取と支配の地位を維持するためには、あらゆる犧牲を拂ふことさへも否まないにもかかはらず、殆んど彼等の腹を傷めずに無產大衆を欺瞞し、階級意識の自覺を妨害せんとしてゐるのである。

ここにも彼等の腹黑い憎むべき陰謀がかくされてゐる。

あらゆる工場鑛山其他で勞働者が勞働し生產してゐる。資本の搾取はその上に寄生してゐるのである。從つて、勞働者が病氣したり負傷したりした時に、資本家が醫者にかけたり、藥を與れたり、入院させたり、休んでゐる間の手當を與れたりすることは

當然のことである、今迄でも、業務上の場合には全部資本家が負擔しなければならぬ事は、工場法でははつきりと決められてゐるのである。それが今度は健康保險から出すから、資本家は工場法の手當を出さなくても良い事になつてゐる。つまり今迄資本家が全部負擔してゐたのを、今度は勞働者に半額負擔させようと云ふ虫のよい法律である！

彼等は業務外の負傷や病氣の場合にも手當をやると云ふことで、無自覺な勞働者を有難がらせようとしてゐるのであるが、業務外の負傷や病氣はメッタにあるものではなく、若しそんな不幸があつたにしても、それは資本主義の奴隷的虐待に基因せぬものは殆んどないと云つてもよいのだから、業務上の場合と同樣に取扱ふべきであつて、それを區別する理由はないのである。故に業務外の負傷や病氣の場合の手當を、彼等が恩にきせようとしても、勞働者が有難らぬのは當然である。況んや何年間でも病氣にもかゝらずに負傷もしなかつたら、高い保險はかけ損となつてしまふのであるし、實際に長患いでもした場合には、百八十日限りで被保險者の資格を失つてしまふのだし、會社を首になればその日から保險給付の權利がなくなるような仕掛になつてゐる

健康保險法に對して、勞働階級の不公平不滿の叫びが、個々の資本家との「保險料全額資本家負擔」の經濟鬪爭から、資本家的政治權力に對する全面的政治鬪爭に迄進展せんとし、進展しつゝあるのは當然である。

健康保險法の實施をきつかけとして、保險料全額資本家負擔その他の要求をひつさげて、個々の經濟鬪爭が一齊に起され、旣に、部分的經濟的勝利を克ち得たのも多數あるのであるが、我々は斯くの如き、部分的經濟的勝利を以て、滿足しては決してならないのである。資本家階級は、部分的經濟的讓歩をあらゆる社會政策制定　最初から覺悟してゐるのであるから、我々は之れを完全にその極限まで戰ひとることを勿論必要とすると同時に、斯くの如き欺瞞政策發生の根元――資本主義――そのものを戰ひとる爲に、全國的政治鬪爭へ、無產大衆の全勢力を集中せしめなければならないのである。即ち、その具體的戰術として、直ちに全國被保險者同盟を組織し、勞働農民黨、議會解散請願運動協議會その他の無產者團體と協力して、資本家政府に對する果敢なる政治鬪爭をすることが、我々プロレタリアートに與へられた當面の歷史的使命でなけれはならぬ。

完全なる健康保險法を獲得せよ！

全國被保險者同盟を組織せよ！

事務所移轉

芝區愛宕下町二ノ三へ！

日曜日を除き毎日正午――午后一時半迄を在社時間とします。どうぞ、みなさんお出かけ下さつていろんな話を聞かせて下さい。

市電は土橋、新橋驛前下車、新橋驛より三丁位です。

月

山脇浩太

夕美子さんはお月さまが好きでした。この春から小學校へあがつてゐましたが別に仲の好いお友達を拵へるといふ風もなく、學校から歸つて來ると、何時も部屋の中で獨りぽつりんとして悄氣込んでゐました。お母さまは何時もこれを心配して斯う仰言るのでした。

『これ夕美ちやん、かう毎日お家ばかりに居ては體にも惡いから、少しは外へ出てお友達と遊んでゐらつしやい』

すると夕美子さんは斯う申しました。

『――でもお友達なんかと遊びたくないの。私のお友達はお月さまお一人よ』

そして、日が暮れて、裏手の森から綺麗な銀貨のやうな月が顏を出すと、夕美子さんは急に元氣になつて、窓に凭れて一人お月さまを眺めて遊ぶのでした。室の中は朝顏のやうに悄氣込んで碌に口もきかない夕美子さんではありましたが、お月さまの動くのを見ると忽ちはしやいで唱歌などを唄ひました。

月は、時には白い薔薇のやうに氣高く匂ふてゐることがありました。そんな時には夕美子さんは唄を忘れて、いつまでも〳〵恍惚と見とれてゐました。

春を待つ歌

福富まき子

久々の冬晴れの日は
はるかなる山の姿も
めづらしと見る。

×

玻璃ごしの冬の日射に
片頰のほてりをおぼゆ
春遠からじ。

×

春來なば
うちつれだちて一日を
山に遊ぶもよからずや友。

×

まれに見る

月が、磨き上げた鏡のやうに冷めたく冴えてゐる時には、夕美子さんは寂しさうに考へ込んでばかり居ました。

『お月さまはいつも私のやうに一人ぼつちだわ。だから屹度寂しいんだわ。星はいつも澤山のお友達と一緒に遊んでゐるけれど、お月さまが一人ぼつちで森から出て來ると、意地惡やさんの星たちはみんな言ひ合したやうにどつかへ隠れて仕舞ふんだもの。それでお月さまは寂しいんだわ』夕美子はこんな獨言を申しました。

ことに曇つた夜は、お月さまは一層、悲しさうにしてゐました。大きな暈を着てどんよりと沈んでゐるお月さまの悲しげな顔を見ると、夕美子さんもひとり悲しくなつて來るのでした。

『お月さまは何故あんな暗いお顔をしてゐらつしやるんだらう。雲が大きな手をひろげて悪戯をするので、それで沈んでゐらつしやるのだらうか。それともお月さまも私のやうにお父さまがないので、それで悲しいのか知ら？あら、お月さまのお顔はだん／＼蒼ざめて行くわ。死んだ人の顔のやうに青白いわ。お月さまは屹度死んだお父さまのことを思ひ出して、それであんなに沈んでゐらつしやるんだわ』夕美子さんは窓に倚りかゝつたまゝ涙組んで仕舞ひました。

これを御覧になつたのは夕美子さんのお母さまでした。

『夕美子、お前どうしたのだえ、泣いてゐるぢやないか。お前はあまりお月さまを見るから不可ないのだよ』

冬晴れの朝の光りをば
春の光りかとなつかしみ吸ふ。

×

ペンを持つわが指先に
やわらかき朝日の照れば
何かうれしも。

×

何かこう
働き甲斐のある日なり
窓に朝日のあかるきあした。

×

春の野に立つかげらふの
それぞともおもほゆるかな
ストーブの湯氣。

×

ストーブの湯氣と
時計のセコンドの

『――でもお月さまがあまり悲しさうに沈んでゐらつしやるんですもの』
『お前は本當におかしな子だよ。ほれ御覧なさい。お前の顔は眞蒼だよ。毎夜、月ばかり見てゐるからこんなに蒼くなつたんですよ。もう今晩はおそいからお寢みなさい』かう言つてお母さまは優しく夕美子さんを抱いて寢室へ行かれました
その夜から急に夕美子さんの體が惡くなつて、それきり寢床から出られませんでした。お母さまは心配して早速近所のお醫者をお迎へになりましたが、夕美子さんの病氣はお醫者さまにも解りませんでした。
夕美子さんの體は日一日と青白く痩せ細つて行くばかりでした。
或る夜のこと――夕美子さんは寢床に體を横たへたまゝお母さまに斯う申しました。
『お母さま、もうお月さまは森から出てゐらつしやる頃です。窓を開けて頂戴な』
お母さまはなるだけ夕美子さんにお月さまを見せないやうにしてゐましたが、それでも餘り可哀さうに思はれて窓をお開きになりました。
月は銀の花のやうに麗はしく森の上にかゝつてゐました。青白い月の光は水のやうに夕美子さんの寢床へ流れ込みました。
『あゝ綺麗な月の色だこと！この光のやうな青白い着物を着てお月さまの傍へ行つたらどんなに樂しいでせう。あゝ、お母さま、御覧になつて？今、お月さまは私の寢床を覗いてお笑ひになりましたわ、あれは屹度、私の病氣を慰めてゐて下さるんですわ』かう言つて夕美子さんは嬉しげにゝつこり微笑みました。お母さ

音のみひゞく晝の事務室。

×

あたゝかき
春のおとづれ待侘ぶも
老いたる弱き母思ふ故。

×

飼猫の
すがたの見えずなりてより
四五日經れど歸り來らず。

×

叱られて
人をうかゞひ見るときの
かの猫の眼は哀れなりしが。

×

行きずりに
ふと見し人の横顔の友に似たれば
ふりかへり見る。

まはそれを悲しさうに御覧になつてゐましたが『月が笑つたりなんかする筈がない。夕美子は熱のために囈言を言つたのだ。病人に夜風を當てゝは毒だ』と思つたお母さまは月がキラ〱と輝いてゐる窓をぴつしやりお閉めになりました。そして夕美子さんの枕元へ歸つて病人の靑ざめた額に掌をおのせになると、もう夕美子さんは何時の間に冷めたくなつてゐました。呼んでも叫んでも夕美子さんの美しい唇は動きませんでした。白い花のやうに夕美子さんは萎れて仕舞ひました

× × ×

それから幾年もの月日が流れました。けれどもお母さまにはどうしても夕美子さんが死んで行つたとは思はれませんでした。裏手の森からお月さまがのぼつて來ると、お母さまは夕美子さんのことを思ひ出しました。いゝえ、夕美子さんのことを思ひ出すと月が昇つて來たのかも知れません。——をはり——

(二十頁よりつゞく)

これは雜誌協會の英斷と云ふよりも、その大多數の顧客である婦人讀者階級の勢力のしからしむる處であつて毎月いち早く小賣店の店頭を賑はす誇りの高い婦人はさぞせい〱した事であらうと思ふ。

が婦人にしてこれ位勢力があるとしたならば、何故に今一步進んで、高き誇りの爲めに、あのうす汚い貧乏人と云ふ階級を再び目の前に見る事のないやう、此世の外に驅逐してしまつたらどんなものであらう。

コツ〱働いてゐるやうな人間などのない、キレイな、上品なぶら〱遊んでゐる人間ばかりの社會になつたら一層せい〱する事であらうに。

(二十五頁より)

も農業で生きてゆかればならぬ人間の問題が農民問題なので、勤めのひまに酒をのんだりカルタをしたりするのと、裏で畑でも作るのとどちらが「人間として」よりよい生活であるかといふやうな問題は農民問題でありません。

婦人職業問題といへばやつぱりそれと同じ性質のものでせう。それは現代の婦人がさういふ位置におかれるに至つた社會的必然と、それがどういふ歴史的展開をとるかといふことゝ、それに應じて婦人は、どういふ個性的乃至集合的な行動をとればならぬかといふことゝ、それに對して社會や國家はどういふ態度なり政策なりをとらればならぬかといふこと。

さういふ事などがこの問題の要點だと思ひます。然らばこゝに提供されてゐる問題は、それとは全く別のもので、要するに職業などはとらずとも生きるには差支ない身分の方々の生活道德の問題です。

さういふ問題も、今日のさういふ方々の上には必要の事でせうが、私はさういふ方々も進んで、社會問題としての婦人職業の問題について一考されるやうにと希望します。』云々

闇にゐて

山本和子

風鈴の短冊が大きくひとゆれすると、むし暑い風がぱつたり凪いだ。夕立になるらしい雲がその靜間に擴つて行く。

彼女はさつきから椎の木の枝を瞶めてゐるのであつた。

一匹の灰色のやもりがトタン塀からぴよいとその枝に飛び移るとS字形に身體をくねらせて、巧みに五六寸スル〱這ひ上つた。するとすぐ後から又一匹素早く飛び移つた。そして暫くの間身動きもしないでぢつと上手を見上げてゐたが、やがて先のやもりが太い首を一寸下の方にかゝげて直に大急ぎで上つて行くのを見ると、これも又非常な勢で後を追つた。

二匹のやもりの白い横つ腹が二條の曲線を描き乍ら太い幹の裏と表に見えかくれする。

そして遂に二匹は元の枝の向ふ側で出喰した。

細い尾の先がほんの少しのぞいて見える。

彼女は其處まで見極めると、ハツとして紅くなつた。

まだ暮れ切らないが、今日も遂々六時になつた。

夫は未だ歸らない。
昨日の朝、いつものやうに行先を云はずに出た限り歸らない。
そして彼女はその二日間、近頃すかつり遊び癖のついた彼がどんなに愉快な緊張を持ちつゞけて過したかを思うと胸が冷くなるのを覺えた。
彼は、朝、新文社へ顏を出して來月號の編輯を大體決めて助手に原稿集めを云付けると、その足で文士のK氏と、病氣で自宅に引き籠つてゐるM新聞のF氏のところへ出掛けたに違ひない。夕方まで駄辯つて夕食後からはなを始めたんだ。夜明け方皆と共に一寸ごろねをして、十時頃のこ〳〵起出すと、そのまゝ新文社を覗いていゝ加減間をつぶし、三時から始る××對○○第一回戰を見に戸塚野球場へ酒落れ込んだのだ。
酒や煙草程度の道樂も持たない。まして他の女の色を漁る程の勇氣と餘裕を持たない彼が、野球を見に行つたり、徹夜してはなを弄ぶ位を彼女が嫉妬するのは少からず滑稽に見えるかも知れない。少くとも表面分らずやの女房だと云へる。
だが彼女は、他の奥樣達が、夫と他の女とのみだりがましい場面を思ひ浮べて嫉妬するのと同樣の嫉妬が野球の上に感じられるのだつた。人の前で横面をなぐりつけられるよりも烈しい侮辱がはな机の上に感じられるのだつた。
酒に醉ひ痴れる事は醒めさへすれば、彼を彼女の許へ送り屆けて呉れる。
賣笑婦があたへる一つの快樂と緊張はほんの一瞬間彼を昂奮狀態に置くだらう。併しやがて幻滅の悲しみをのせて再び彼を彼女の手に戻して呉れる。
だから彼女はむしろそうした空なものを追ふ程低劣な彼である事の方をどれ丈望んでゐる事か！
併し快晴の空に明るく高くカンと本壘打がかつ飛んだ瞬間、それに摑み上げられた幾千の觀衆の歡聲と拍手、ランナーが間一髮を置かず壘に辷り込んだ瞬間、その瞬間の異常な緊張と熱狂。それは彼女が凡ゆる技巧と粉飾をこらしても

彼にその破片すら捧げ得ないものなのだ。

彼女の技巧と美はやはり彼のパッションをいつもの通りのプロセスを通過せしめてお定りの所へ落ちつかせるのみである。

彼女は近頃、彼等二人限りの夜の世界で彼がよく欠伸をしたり、半分眠りかけたりしてゐるのを見かける事がある。時には彼の身體ぢうの細胞がみんなポカンと口を開いてゐて、彼女が一生懸命につめ込んでやつてゐる熱を次々に吐き出してゐるのだと思ふ事がある。

さうした時、彼女はその忘屈を救うために話に聞いた女郎の仕草や、本で見た女の臺詞やらを面白さうに眞似てやるのだつた。彼がそれに興味を覺えて、狂暴な力で彼女を抱きしめると、彼女はその腕の中へ疲れた身體と心を投げ入れてポロ〳〵彼に知れぬやうに泣くのだつた。

新しい朝が訪づれた。彼女は夫を喜ばすために又別な方法を考へ出さねばならなかつた。

彼女は彼の興味の中心をなすそのポイントを捕へる事に敏感であり聰明でなくてはならないのだ。現在のその大切なポイントの一部が、野球にかゝつてゐる事を思ふと彼女は毎朝の新聞の運動欄を忠實に見る事を怠らなかつた。

彼が朝食の膳につく時に、彼女の献立はきれいに出來上つてゐた。

『あなた駿臺がはじめて勝つたのね。』

『うむ……』

『瀨木が本壘打を打つてるぢやないの。』

『うむ、ライトの後の金網を越したんだよ。見物が投げてやらなかつたら、幾らでも走れるからなアハヽヽ。』

彼女は哄笑する彼を楽しさうに眺めた。

又夜更けて彼が不機嫌さうにして歸つて來た時等、彼女は結婚當時のやうに子供らしく無邪氣に飛びついてキッスをしてやる代りに、用心深い眼で彼を見ながら、默つて床を取ると枕を二つ竝べて、直にはな札を取出し、

『ねえ、一番やらない？』

と切り出すのだつた。

『うむ。』

と彼が輕く頷く時は、彼女の計畫は已に功を奏したのである。

『おい、紅葉でチョンだぞ。』

彼の眼が負けじと輝いてくるのを見ると、彼女も心から晴やかに微笑めるのだつた。

彼より手際のいゝ彼女が續けさまに二度も勝つと、彼は半ばむきになつて、荒々しく札をパチンと投げる。彼女はすつかり自分の計畫の上に甦つた夫の生々した姿を見出すと、いつしか我を忘れて子供らしく騷いでゐるのであつた。

そんなにも嫌怠を來たした自分達の生活、まるですつかりのび切つたゴムのやうな二人の生活にどうかして張りをもたせやうとして、彼女は野球の話を通じて、弄花の腕を通じて輕うじて、彼を繫ぎとめるそのひといきに一生懸命にしがみついた。けれども間もなく彼と彼女の間はもうそのひといきにすら信賴してぶら下つてゐる事の危險が迫つて來てゐるのだ。

それでも彼女は望みを失はずに待つた。まだ彼女と彼を結びつける何かゞ殘つてゐはしないかと執念深くさがし出さうとした。

彼はきつと歸つて來る！

その信念が、たとゑ濱の砂のやうなものであつてもその砂の上に自分の生活の礎を築かうとした。

今夜は！
今夜は或は歸らないかも知れない。
併し明晩は？
明晩は！
否！　いつかは歸つてくる。
はなに負けたら歸つてくるかも知れない。
野球が終れば歸つてくるかも知れない。
彼女は家の中を見渡した。
昨日の朝洗つて糊つけをした彼の浴衣が壁にかゝつてゐる。彼女は立ち上つて、その浴衣の胸のあたりを撫でながら淋しく微笑んだ。そして呟いた。
彼の着て行つた着物が汗臭くなつた事だらうに。そうだ、彼は着物を着換へに歸つてくるだらう。
部屋の眞ん中には食膳が白いふきんに蔽はれてゐる。その下には今晩の貧しい御馳走がならべられてあるのだ。
彼は腹が空いてゐるだらうに。
カフエーで食事をする金ももうないだらう。そしたら彼は歸つてくる。
彼女はつと押入れを開けた。
春に縫ひ直したメリンスの蒲團が重ねられてゐる。彼女はいきなりその上に半身を投げかけるとそこへ顔を埋めた。
夜更しに、無駄遊びに疲れたら、彼はこの夜具に身體を横へに歸つて來る。
私の隣へ身體を休めに歸つて來る。
それよりも外の生活に飽きたら、仕事をしに歸へるだらう。

さうだ仕事をする氣になつたら歸るのだ！

この書きさしの原稿が、このしさしの飜譯の原書が、澤山な辭典が彼を歸らせてくれる。それよりも、もつと〳〵大切な私の手が彼を引戻してくれる。

戯曲をかく時、會話の相手になつてやる自分。飜譯する時、辭典を繰つてやつたり、淸書してやつたりする自分、それが彼を仕事させにつれてかへる。

自分のこしらへる料理、それは料理屋の方がどれ丈美味しいか知れない。

自分の貧弱な肉體、それは健康な彼に取つてはむしろ悲哀を感じさせるだらう。

けれども、享樂生活に飽きた時、この一人の妻なるものゝ存在がどれ程彼の前に必要を感じさせるだらう。」

彼女はいつの間にか私かな誇りが胸をついて來るのを感じた。

そして急に勢づくと机の上を整理しはじめた。

この机の前に二人が竝ぶとき、最も近くにお互が感じられるのだ、そしてその二人は夫婦である。

彼女はよれ〳〵になつた辭典や原稿紙やペンやインクを矢鱈にいぢり廻した。彼女の指先の觸覺は貪るやうにそれらの中から彼の匂ひをさぐり求めた。

『ね、もういゝ加減に遊ぶのを止してお歸りなさい。そして仕事をなさい。』

彼女は今きれいに擴げたばかりの原稿の上に明るい微笑を投げた。

併し彼女の顏からは、やがてその明るい微笑が跡かたもなく消えて、只影のやうに一人の男の後に默々と妻の步みを繰り返へす日に出合ふだらう。

（一九二六、八、三）

編輯室にて

寒い〳〵日がつゞいたあと、今日はからりと暖かく晴れて風一つないいゝ天氣でございます。こち〳〵に凍てついた土の中から、早や幾つもの芽ばえが陽の方に手をさしのべて伸びよう伸びようとしてゐる姿をみて私はほゝえましく思ひました。

どうやら、今年はわが婦人界も大きな飛躍をとげて實のある生活に入ることが出來さうに思はれてなりません、お互ひに、まづ自分自身の生活をしつかりと打立てゝ進みませう。

×

産兒制限運動に非常につくしてゐて下さる馬島僴氏御夫妻が墮胎施術の嫌疑で擧げられた、といふことがブルヂョア新聞に業々しく書き立てられてありました。(すぐ無罪放免になられた)産兒制限といふことが直ちに墮胎を意味することのやうに世間から誤解されはしないだろうかと、私は不安に思ひました。

いくらでも、生みつぱなしで女中や乳母の手に渡してゐられる階級の人達はとにかく、私たち無産の女を、産みすぎることとの苦しみから保護しやうとするこの産兒制限の實際については、婦人は、特に正しい理解をもつてゐなければならないと思ひます。

×

貧困兒、孤兒、捨兒・迷兒等を扶助する法令として今度の議會に提出されやうとしてゐる内務省案の兒童扶助法案の中に、私生兒が全く除外されてゐるといふことに氣がついて問題となつてゐるといふ事です。私生兒なればこそ餘計に保護されなければならないのではないでせうか。よしその母にどんな過失があつたにしろ、その父がどうであるとしても神のやうに無心の赤子に差別しなければならない何の科がありませう。まして、國民としての義務は、私生兒も公生兒と同じく背負はればならないのですもの。

事務所を移轉しました。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵税五厘）
半年分　壹圓四拾錢
壹年分　貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年一月廿五日納本
昭和二年二月一日發行

東京市外中野町園三二四四
發行編輯兼印刷者　奥むめお
東京市小石川區西古川町二五・
印刷所　中外印刷株式會社
東京市芝區愛宕下町二ノ三
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

解放

勞農版

大安賣

毎月中旬半値發賣・團體交渉其上割引

菊版 正月倍大號 目次

本號特別實價半圓
普通號一冊百六十頁以上
（一冊廿五錢　一年倍大號共二圓半）

四六版解放正月號

ユートピア全集

（六十五斤二百五十頁　送料共實價金五十錢）

有秋守田文治編輯

一月半圓・一年五圓

目次

東京市芝區新櫻田町十九
解放及解放群書發行所

解放社

振替東京三六九四四番
電話は銀座二〇七七番

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
昭和二年一月廿九日 印刷納本
昭和二年二月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動 第五巻第二號（定價二十五錢）